

三、蘇聯邦

E-2041

通商局
 昭和十年一月二十三日

公第三五號

昭和十年一月二十三日

在オデッサ

領事 平田

通商局

外務大臣 廣田 弘毅 殿

蘇聯邦工業輸出發達ニ關スル件

最近ノ蘇聯邦輸出ヲ戰前ニ比較スルニ其内容ニ著シキ變動アリ各輸出項目ノ輸出總額ニ對スル割合ヲ舉ケ其變動ヲ示セハ左ノ如シ

年	食料品	原料及半製品	動物製品	製品
一九一三年	五六八%	三八七%	二%	二%
一九二九年	二四三	六五〇	〇・四	一〇三

在オデッサ日本領事館



昭和拾年貳月拾八日接受

一九三〇年	三四二	五六一	〇〇	九七
一九三一年	三七三	五二六	〇〇	一一一
一九三二年	二四八	五八六	〇〇	一六六
一九三三年	二二七	六三六	〇〇	一八七

即チ戰前輸出ノ五六八%ヲ占メ居タル食料品ハ激減シ原料及半製品ハ倍加シテ全輸出ノ六三六%ヲ占ムルニ至リ製品ハ逐年増加シ略々食料品ト匹敵スルニ至レリ

右輸出品目ノ變動ハ蘇聯邦工業化政策ノ結果ト推スヘク第一次五年計畫ノ諸事業カ今日漸ク結實ノ期ニ達シ石油、石炭、鐵及其他半製品ノ生産並ニ粗製工業品カ増加セルニ因ルモノナリ他方農産物ハ夫レ自體ノ減産及國內需要ノ増加並ニ其他原因ニ依リ減少ヲ來セリ

蘇聯邦ノ工業製品ハ大體低級ニシテ主トシテ東方諸國ヲ顧客トシ未

在オデッサ日本領事館

タ西歐市場ニハ大量進出スルニ至ラサルモ其將來ハ却々侮リ難キモノアリ最近輸出ヲ初メタル此等新輸出品ノ主ナルモノ左ノ如シ

電球（一九三三年輸出額十二萬六千留）

電氣モーター

機械類（農業機械、精綿機、卷煙草製造機等ニシテ一九三三年機械類輸出額ハ約二百五十萬留）

貨物自動車（自動車ノ輸出ハ一九三二年初メテ之ヲ行ヒ一九三三年輸出額ハ部分品ヲ含ミ九十三萬五千留、一九三四年ハ之ヨリ一倍半増加ノ見込、輸出先地ハ土耳其、波斯、支那、蒙古、唐努、バルチツク諸國）

裁縫マシン（一九三四年少數ヲ初メテ輸出ス）

銑鐵（一九三四年初メテ輸出、仕向地日本、白耳鐵、芬蘭、沿「バルチツク」諸國、土耳其、南米）

在オデッサ日本領事館

各種化學製品（現在化學製品ノ輸出ハ五十種ニ達ス）

右工業製品ノ輸出發達ニ關シ聯邦外國貿易部長「ローゼンゴリツ」

ハ重工業部機關紙「ザ・インダストリアリザチユ」本年一月十五日

紙上ニ「我カ輸出」ト題スル一文ヲ寄稿セルニ付右譯文左記ノ通り

何等御參考迄報告申進ス

本信寫送付先 在森木使

在オデッサ日本領事館

記

蘇聯邦輸出ノ發達狀況及其構成中ニ起リツ、アル變化ニ幾分テモ關心ヲ持ツテ居ルモノハ何人モ一ツノ特徴即チ工業品ノ割合ヲ逐年着々増加シ現在テハ此等商品カ輸出ノ主要部分ヲ占メテ居ルコトニ注目スルテアロウ茲所ニ我蘇聯邦輸出カ革命前ト異ル根本的、本質的、特異性カアル周知ノ如ク帝政露西亞ハ主トシテ農産物ヲ輸出シテ居タノテアル

蘇聯邦農業輸出ノ減少ハ先ス第一ニ食料品ニ貢フモノテアル最近我々ハ此等商品ノ輸出ヲ或ハ縮減或ハ全ク停止シタ

食料品類ノ輸出ハ最少限度ニ留メラレタ一例ヲ示セハ本年我々ハ織物ヨリモ少額ノ綴類ヲ輸出シタ此關係ヲ正シク評價スル爲メニハ革

在オデッサ日本領事館

命前穀物カ輸出上如何ナル地位ヲ占メテ居タカヲ想起スル丈ケテ充分テアル農産物ハ増加シ而モ其大部分ハ歴大ナル國內需要ノ充足ニ當テラレル之ハ當然ノコトテ都市ハ急速ニ膨脹シ「ソウイェト」勤勞民ノ需要ト購買能力ハ益々増加シテ居ルカ故テアル

原料品ノ輸出及其輸出總量ニ對スル割合ハ一九一三年ノ六九・九%ヨリ一九三三年ニハ三三・三%ニ低落シタ反之精製品及半製品ノ輸出ハ益々發達シテ居ル

石油類輸出ノ内「ベンジン」ノ割合ハ一一%ヨリ一九三四年ニハ二九・九%ニ増加シタ木材中製品ノ割合ハ七二・四%ニ、就中「ベニヤ」板ノ輸出ハ特ニ増加シタ柔毛類ノ輸出中精製品及染色品ハ其大部分ヲ占メテ居ル麻工業ノ發達ニ伴ツテ麻類輸出中半製品（麻絲、麻布

在オデッサ日本領事館

等ノ割合ハ増加シタスノ如キ例ハ枚舉ニ遑ナイ
革命前ト云ハス第一次五年計畫ノ極ク最近迄外國ヨリ輸入シテ居タ
モノ(各種機械及部分品、農具、電球、既成服、莫大小、絲類)カ
現今テハ輸出品目トナツテ居ル又工業新部門ノ開拓ニ依リ「アパチ
ート」、鹽酸加里等ノ如キ新輸出品カ生レタ今年初メテ鉄鐵ノ輸出
ヲ初メタ此ノコトハ疑モナク特記スヘキ事實テアル
我黨及其天才的指導者「スターリン」ノ指導ノ下ニ達成セラレタ社
會主義的工業化ノ世界歴史的胜利ハ蘇聯邦カ「レーニン」ノ遺訓ニ
從ヒ對資本主義國經濟關係ニ於テ毅然ト、且漸進的ニ實施シテ來タ
外國貿易國營政策ト不可分ノ關係ニアル
我々カ蘇聯邦ヲ外國ノ技術經濟的屬從カラ解放スル爲メ我國輸出ヲ

在オデッサ日本領事館

只管其利害ニ隸屬セシムルヲ得タルモ全ク外國貿易國營ノ賜テアル
蘇聯邦存在ノ全期間ヲ通シ我々ハ八十四億金留ノ輸出ヲナシ其内生
産財ハ全輸入ノ八五%ヲ占メテ居ル今哉蘇聯邦ハ生産財ノ輸入國日
リ夫ヲ生産シ機械設備ノ輸出ヲモ初メ得ル國ニ轉シタノテアル
機械建設材料ノ輸出國トシテノ蘇聯邦ノ役割ハ蘇聯邦ト東方諸國(土
耳其、波斯及其他)トノ經濟關係ニ最モ明瞭ニ示サレテ居ル蘇聯
邦ハ東方諸國ニ其必要トスル設備品ノ提供ヲ初メテ居ルノミナラス
又同時ニ技術的援助ノ進出ヲモ初メテ居ルノテアル
我輸出ノ將來如何、其發達ノ動向如何?
將來モ工業輸出ヲ絕對的ニ、將又相對的ニ増加シ我總輸出中工業製
品ノ割合ヲ引上ケ之ヲ發達セシムヘキコトハ疑ノナイ處テアル從テ

在オデッサ日本領事館

今後我國ノ對資本主義國貿易ヲ益々發達セシムル爲メニハ輸出品ヲ製造スル我工業企業備ノ一層ノ熟達、彈力性及「イニチアチーフ」カ必要トナツテ來ル次第ナル

輸出機關及在外蘇聯邦商業機關カ輸出ノ發達及其效果擴大ニ關スル作業ニ於テ我工業ニ確固タル支柱トナルヘキコトヲ期待スルハ當然ノコトナル

輸出事業改善ノ爲メ工業ノ爲シ遂ケタ功績ヲ過少ニスル根據ハ何等ナイ其結果ハ既ニ蘇聯製品ノ競争能力ノ向上ニ示サレテ居ル然シ之ヲ以テ充分ト云フコトハ出來ナイ

工業ハ輸出發達ノ爲メ遙カニ多クノモノヲ爲シ得ルノテアル此ノ爲メニハ何か必要ナルカ？輸出品ノ製造ヲナス各個工場及部ヲ専門

在オデッサ日本領事館

化シ夫レヲ技術的供給關係ニ於テモ將又勞働者及専門家ノ物質的獎勵ノ關係ニ於テモ特ニ良好ナル條件ニ置クコトカ非常ニ重要ナル

此方面ニ於ケル方策ハ夫カ可能ナ處テモ却々實行セラレテ居ナイ

又部分的ニノミ輸出向仕事ヲシテ居ル非専門企業モ輸出發達ノ爲メ尙一層多クヲナスコトカ出來ルシ又爲サネハナラヌノテアル

輸出品ヲ生産スル多數企業ニ於ケル不當ナル貨銀制度ハ工業輸出發達ノ顯著ナル障害ヲナシテ居ル非常ニ嚴格ナル特種技術條件ニ照應スヘキ輸出品ノ製出ニ對シ或種製品ノ製造ニ要スル勞働ノ質量ヲ算定スルコトナク時ニ非輸出品ト同額ノ貨銀カ支拂ハレテ居ル貨銀均

衡主義ハ茲ニ於テモ斷然排斥セラレネハナラヌ

然シ最モ重要ナルコトハ現在モ彼方此方ニ見掛ケル輸出註文ニ對ス

在オデッサ日本領事館

ル形式的、不注意ナル態度ヲ根本的ニ絶滅スルコトテアル右様態度ノ原因ハ輸出註文カ企業ノ工業財政「プラン」ノ比較的僅少ナル部分ニ過キスシテ而モ企業ニ多大ノ手数ヲ與ヘルコトニアラシイ新ノ如キ手数ヲ何ヨリモ恐レル即チ一般的ニ嚴格ナル質的要求ヲ、特ニ外國市場ノ要求ヲ恐レル企業カ我國ニハ存在シテ居ル新ノ如キ「超熟練」工場ヲ指名スルニ例ヘハ「ロストフセリマシ」工場ハ工場生産能力カ手一杯ナルヲ口實トシテ其製造スル「トラクター」用結束機ノ極メテ些細ナル改造ヲ拒絕シタ「ハリコフ」ノ「セルブ・イ・モロト」工場ハ昨年二十四双犁ノ大量生産ヲ中止シタコトニ籍ロシテ其見本ノ製造ヲ拒絕シテ居ル

在オデッサ日本領事館

ル今日誠ニ遺憾ニ堪ヘヌコトテアル而モ此等機械ハ今哉東方諸國ノミナラス西方諸國（希臘、伊太利、白耳義、和蘭、丁抹）ニモ市場ヲ開拓シテ居ルノテアル輸出向農業機械ノ大部分ヲ供給スル「ウフトムスキイ」工場（リュエベツキイ）ハ本年其製造スル輸出用草刈機、收穫機、結束機ノ構造、品質ノ改良ニ關シ大ナル成功ヲ收メテ居ル誠ニ「ウフトム」工場員ノ名譽テアル

嫌々乍ラ且何等心構ヘナク外國市場向品ノ製造ニ取掛カリ又輸出註文ヲ何カ押付ケラレタル他人事ノ如ク考ヘ居ル工場ハ有害危険ノ偏屈ニ苦シンテ居ル

我企業ノ製品カ世界市場ニ於テ優秀ナル外國製品ト競争スルコトハ蘇聯邦企業ノ嚴正ナル検査ニ外ナラナイ其技術的圓熟ノ検査テアリ

在オデッサ日本領事館

又如何ニ企業カ其日常生産作業ニ於テ黨ノ標語「追付キ超越セ」ヲ
具體化シツ、アリヤノ検査テアル
斯ノ如キ競争ヲ折紙付テ突破スルコトハ當該企業ノ名譽ニ關スルコ
トニシテ其商標ノ大ナル進出ヲ意味スルモノテアラネハナラヌ
我々ハ今哉新技術ノ習得ニ依リ少ナカラサル經驗ニ富ム我國企業ニ
對シ彼等カ輸出向工業品ノ製造改善ニ一層ノ競争性ト弾力性ヲ、一
層ノ鋭敏ト洗練ヲ、一層ノ熱心ト自發ヲ示スコトヲ要求シ得ルモノ
テアル
我々ハ工業ニ對シ左ヲ期待スルモノテアル
「外國市場要求ノ緻密ナル研究、需要要求ノ些少ノ變化ニ對スル反
響、輸出機關ノ要求ニ對スル周密ナル反應」

在オデッサ日本領事館

「製品改良ノ爲メ組織的不斷ノ努力、此關係ニ於テハ如何ナル限界
モ存在セス」
「工業輸出新財源ノ探究、特ニ高度ノ技術ヲ基礎トシテ建直サレ且
新ニ創設セラレタル我國工業ハ輸出品目ヲ増加シ得ヘク又増加セ
サルヘカラス」
我國工業カ常ニ對資本主義國經濟關係ノ現狀カ提示スル要求ノ先端
ニ立ツテアロウコトヲ確信スルモノテアル

(以上)

在オデッサ日本領事館

1
後
百
石

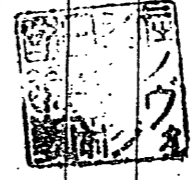
子
昭
和
拾
年
參
月
拾
六
日
接
受

普通第九號

昭和十年二月二十五日

花ノゾガロビルスリ

領事小柳雪生



外務大臣 廣田弘毅 殿

「スクリンスク」ニ於ケル車輛製造工場

建設策ニ関シ報告ノ件

本月二十五日当地方稱同紙「ソヴィエトスカヤンボリ」紙ガ十日
莫斯科發「ラス」電トシテ所載セル記事即参考迄右ノ通
譯報ス。

上記

E-2041

車輛製造工業本部ニ於テ「ラス」通信員ニ對シ「リズネエツク」
車輛製造工場ノ建設展望ニ関シ右ノ通譯報セリ。
近々建設工業本部長代理ヲ隊長トスル重工業人民委員
新派遣隊ノ歸莫ヲ俟ツテ「リズネエツク」車輛製造工場ノ
建設敷地ニ確定スベシ。
本年度内ニ建設ニ着手サル「リズネエツク」車輛製造工
場「スクリンスク」治金「コンビイト」ト並立シ地位ニ建設マ
ラル、甚ニシテ右建設ニ對シ本年度ニ「千五百」留計上
セラルベシ。本年度末迄ニ工場敷地ニ大ナル準備地帯即チ
換言スレバ引込線住宅及其他臨時施設備ヘ他方本年
度計畫トシテ包含セラレ居ル「右工場」基礎「リス」工場業
職場一極概修理道具修理及木細工職場ノ建設開始
ナリ、又同地ニ於テ右工場建設幹部ノ養成ガ初メラル、甚

E-2041

車輛製造工場、予定年産額、鍛接范分ナル四軸六十
 此運炭車五ヶ台及四軸五十也大型貨車五ヶ台ナリ。右
 工場、炭屋工場ト緊密ナル連帶關係ナリ、殊ニ炭屋工場
 車輛建造、爲メ中要ナル材料品ヲ提供スベシ。
 備、亦同車輛製造工場、本年、クラスヤル市ニ建設
 着キ、見ル予定、車輛製造工場、配給スベキ自動車結
 構及鑄造機、生産ヲイヌ旨強大ナル圧延鋼職場、
 設置ケ計畫サレオレシ。

本信寫送付先

在ソノ代理大使

(分類 E.4.5.0.31)

(票合照)

政令第七一七號

昭和十年二月二十日

記録件名

受信者 陸海軍省

發信者 軍務局長

件名 陸海軍省に於ける陸海軍省公署及保健

原書

陸海軍省公署及保健

ニ在リ

通商局

寫部

公 信 案

外 務 省

文書課長

文書課發送

昭和拾年貳月廿六日發送

淨書

正校(原稿)

(淨書)

主 管 歐亞局長

主 任 第一課

昭和十年二月十一日起草

歐一普通

號 三

昭和

昭和拾年貳月廿五日附

附屬

陸軍省
海軍省
參謀本部
軍令部
第...部

水田中務局長
吉田中務局長
磯谷中務局長
高須中務局長
竹内中務局長

發 信 人 東 郷 歐亞局長
記 録 名 冬 五 二 十 七

件 名 朝鮮邦工業輸出促進ニ関スル件

本件ニ關シ今般在オテソサ 平田中務ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ
付爲御參考右茲ニ送付ス

本信送付先 陸軍省、海軍省、參謀本部、軍令部、第...部

(昭和十年一月二十三日附在オテソサ館來) 電機第三五號寫部附屬書

通二
0.27
交付

25 53



第一五三〇號

記録件名

昭和十年四月十一日

(票 合 照)

受信者 陸海軍省局長

発信者 東京陸軍局長

()

件名 一九三九年四月十一日 陸海軍省局長 宛 東京陸軍局長 発

(分類)

原書ハ

陸海軍省局長 宛 東京陸軍局長 発

ニ在リ



歐亞局

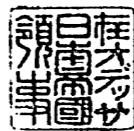
公第一〇七號

昭和十年四月二十六日

在オデッサ

領事 平田

稔



外務大臣 廣田 弘毅 殿

「ウクライナ」地方工業成績ニ關スル件

「ウクライナ」地方工業ノ本年生産額ハ十二億八千萬留ノ豫定ナルカ本年第一期（一、二、三月）成績ハ二八三、五九二千留（一九二六年一七年度價格）ニシテ同期豫定ニ比シ一、四三九千留不足、「ブラシ」ノ九六一%、前年同期ニ比シニ七九%増ナリ
之カ工業部門別左ノ如シ（單位千留）

第一期生産額	對ブラン%	對前年増率%
重工業	六五四七六	九八五
輕工業	一七三、八〇六	九八一
		一六六

在オデッサ日本領事館

F.Y. 10.31

食品工業

三六六七三

八三六

一六九

製材

八六三七

九九五

四二七

計

二八三、五九二

九六一

二七九

其内地方工業部直屬工業ノ生産高ハ七二、六三、七千留ニシテ「ブラン」ノ一〇、二%、州經營ノモノハ二一、〇九五、五千留、九四%ニシテ成績不良ナリ

又之ヲ各州別ニ見レハ「ハリコフ」「ドネプロベトロフスク」「モルダビヤ」ハ豫定ヲ超過セルモ其他五州ハ孰レモ豫定ニ達セス就中「オデッサ」州ハ八四%ニシテ成績最モ悪シ

第二次五年計畫以來當局ハ國民生活ノ向上ニ留意シ輕工業ノ發達奨励ニ銳意努力シ昨年輕工業部ヲ改編シ地方工業部ヲ設置シ地方工業ノ大部分ヲ州ノ經營ニ移セリ

昨年來輕工業及食品工業ノ生産高ハ漸ク増加ノ傾向ヲ示シ本年此等製品ノ市場出廻モ前年ニ比シ顯著ナル増加ヲナシツ、アルカ州經營地方工業ノ不振ト商業機關ノ改組相次キ組織上ノ缺陷アル爲メ未ダ

在オデッサ日本領事館

國民ノ需要ヲ満足セシムルニ至ラス
右報告申進ス

在オデッサ日本領事館

外國工業の進歩

歐亜局

昭和拾年七月廿參日接受
附屬添付

公機密第七〇五號

昭和十年七月十八日

在間島
總領事 永井

外務大臣 廣田 弘毅 殿



昭和十年七月十八日機密第八九八號寫送付

在滿大使 宛

一、蘇聯ニ於ケル工業向上情況

手紙 E 4. 1. 0. 3 /)

在間島日本總領事館

機密第八九八號

昭和十年七月十八日

在間島

總領事 永井 清

寫

在滿洲國

特命全權大使南次郎 殿

蘇聯ニ於ケル工業向上情況

理春分館署長報告要旨

本件ニ關シ浦塩ヨリ得タル諜報左ノ如ク報告ス
一、大規模産業ノ總產高ハ四個年ノ間ニ二百八億
留ヨリ五百億留ニ至チ八。%増加シタルヲ目
用品ノ生産ハ之ニ比例セズ最近數年間ノ工業

長成ノ統計左ノ通

年	總產額 (億)	生産額増加 (單位八十億留トス)	前年度ニ對スル%
1929	21.2	4.4	125.8
1930	27.8	6.6	130.7
1931	34.2	6.4	123.3
1932	38.8	4.6	113.5
1933	42.2	3.4	108.3
1934	50.0	7.8	118.3
1935 (計測)	68.5	8.5	117.0

蘇聯工業ノ長成速度ニ對スル數字ハ一九三二年
一九三三年ニハ其ノ長成速度稍々減シ一九三四
年度ニハ又其ノ長成ノ速度充分ニ發展シタリ
今年ニ於ケル工業生産額ノ増加ハ七十八億留
ニ達シ過去ニ於テナカリシ増加率ヲ示シタリ
一九三五年ニ於ケル課業計畫案ノ工業生産品
ハ八十五億留ナルカ之ヲ完全ニ實行スヘク目下
盛ニ各工業ニ努方シツ、アリ

一、一九三四年度ニ於ケル製鐵業ハ經濟及政治的ニ大成果ヲ收メタルカ其ノ狀況次ノ如シ

ハ、鑄鐵生産ハ一九三〇年度ニ比シ一〇一%長成シ

一千五十萬噸ニ達シ其ノ内昨年一ヶ年間ニ

三百三十萬噸ノ長成ヲ見タリ

四、鋼鐵ノ生産長成ハ六六%ニ上リ九百六十萬噸

ニ達セルカ其ノ内一九三四年度ニ於ケル長成

ハ二百七十萬噸ニ達セリ

ハ、展鐵生産ハ四九%増加セラレ六百七十萬噸ニ

達セルカ其ノ内一九三四年度ニ於テ八百八

十萬噸長成シタリ

一、重工業中特ニ原油採取業、有色金屬業、鐵道

運輸業、機械製造業ハ甚タ遅レタル為之レカ促

進策ヲ講スヘク勞働者、技師、管理者ニ對シ強制

的ノ役役ヲ爲サシメツ、アリ

一、輕工業人民委員會、産業ハ最後ノ一ヶ年間ニ

總生産品五、二%増加セシムル様ニナリタルニ計

畫案通り實行セサルニ至レリ

第二次五ヶ年計畫中ノ本年度ニ於ケル輕工

業生産品總量ハ一、七%食料品ノ生産業ノ

生産總量ハ一四、八%ニ長成セシムヘク目下急

キツ、アリ

一、林業ハ人民委員會ノ管理ノ下ニ木材化學産業

製紙業等充分ニ發展シアルニ在來ノ作業方法

ヲ用キタル為メ作業ノ進捗思ハシカラズ將來ハ

機械化セシムヘク着々準備中

一、最近四ヶ年間に三百九十億留シ産業建設ニ投資シ多數工場製造所發電所ヲ設ケタルガ一九三五年ニハ二百十一億九千万留ニ相當スル基礎的總建設事業計畫案アリ經費百五十億留ヲ工業建設事業ニ支出セリト

以上

本信字送付先

外務大臣 奉天 吉林 新京 哈爾濱 總領事

綏芬河 副領事

關東軍參謀長 關東憲兵隊司令官

獨立守備第七大隊長 延吉憲兵隊長

朝鮮總督 咸北知事 管下一般

公第二二三號
昭和十年十二月六日
第一課
昭和十一年一月七日 接受

在オデッサ

領事 平田

外務大臣 廣田 弘毅 殿

蘇聯邦重工業成績ニ關スル件

本年十ヶ月間ニ於ケル蘇聯邦重工業成績ニ關シ左記ノ通り報告申進ス



在オデッサ日本領事館

「十ヶ月間蘇聯邦重工業成績」

一、工業概績

本年十ヶ月ノ蘇聯邦工業總生産額ハ三百十九億八千八百十萬留（一九二六―七年度價格）ニシテ前年同期ニ比シニ三五%増ナリ
工業狀況ハ年初ヨリ概シテ好調ヲ續ケ各期共前年ニ比シニ割餘ノ増産ナリ各期ノ年「プラン」遂行割合ハ第一期二四%、第二期二四七%、第三期二五%ト逐増シ斯クテ年計盤遂行率ハ九ヶ月間ニテ一九三一年六九%、一九三二年七三%、一九三三年七六%、一九三四年七六%ニ對シ本年ハ七四%ニシテ近來ニナキ好績ヲ示セリ
而シテ之ヲA類（生産要具）トB類（日用品）ニ大別スレハ其對前年同期増率左ノ如シ

在オデッサ日本領事館

	第一期	第二期	第三期
A 類工業	二三・一%	二三・〇%	二三・九%
B 類工業	一六・九	一三・二	一五・八
<p>斯ノ如クB類工業ノ増産程度ハ當局ノB類重厚策發表ニモ不拘依然 A類ニ比シ大ニ劣ル 更ニ之ヲ各工業人民委員部別ニ見レハ左ノ如シ</p>			
重工業部	十ヶ月生産額 一九六二〇・七	對前年同期増率 二五・二%	
林業部	一九四六四	一五・五	
輕工業部	四五六四〇	九・六	
食品工業部	四四三三〇	二四・六	
内閣買付委員會	二三一四九	三四・五	
映畫寫眞局	一〇七一	五六・四	
<p>右聯邦所管工業ノ外共和國經營地方工業生産額約三十三億留(前年 ニ比シ約一割五分増)、工業「コオベラチャ」所管工業三十億留(</p>			

在オデッサ日本領事館

前年ニ比シ約二割増)アリ

ニ、重工業成績

重工業部機械紙所報ニ依ルニ重工業部所管工業ノ本年九ヶ月間生産額ハ一七二九二百萬留ニシテ前年同期(一三、八三、八七百萬留)ニ比シ三十四億六千萬留即チ二割五分ノ増産ニシテ其増率ハ「プラン」豫定ノ一九六%ヲ超過ス

而シテ對年「プラン」割合ハ前年ノ七三・一%ニ比シ七五・九%ナリ本年重工業部所管生産額ハ機械紙ノ發表ニ依レハ二百二十七億九千萬留ナルヲ以テ之ヲ基礎トシ年「プラン」ニ對スル割合ヲ算出スレハ前額七五・九%ハ妥當ナルモ第七回「ソウイェト」大會ニ於テ「オールジョニキーゼ」ノ報告セル如ク二百三十五億六千八百萬留トスルトキハ其率ハ七三・三%ニ低下スル次第ナリ(尤モ蘇聯邦統計ノ不正確便宜主義ナルハ茲ニ贅言スル必要ナキ事實ニシテ例ヘハ一九三四年上半年重工業生産額ニ關シテモ當時ハ九四、八八、七百萬留(又「プラ

在オデッサ日本領事館

ウダ」紙ニ依レハ九五八八百萬留ト公表セラレタルモ本年ハ之ヲ八九九三、四百萬留(重工業部機軸紙六月三十日附)トナシ居ルカ

如シ)工業生産ノ各期増進状況ヲ示セハ左ノ如シ

第一期	五四一、八	百萬留	一ヶ月平均	百均留	各月生産高	百萬留
第二期	五八四〇、一					
第三期	六〇四〇、一					
			七月		二、九七三、〇	
			八月		二、九九九、二	
			九月		三、〇六七、九	
			十月		三、二六三、九	

「備考」一九三四年九ヶ月間ニ於ケル一ヶ月平均生産額ハ二、五三七六百萬留、内九月二、六四四、六百萬留ナリ

右ノ如ク各期毎ニ増進シ殊ニ九月、十月ノ増進特ニ著シク前年ニ比シ大ナル進境ヲ示シ居レリ

在オデッサ日本領事館

次ニ重工業各部門ノ十ヶ月間成績ヲ示セハ左ノ如シ

石炭	一九三五五年全年	十ヶ月間成績	對前年同期
石油	一九三五五年全年	對年ブラン%	増率%
コークス	一九三五五年全年	對年ブラン%	増率%
鐵鑛	一九三五五年全年	對年ブラン%	増率%
鉄鐵	一九三五五年全年	對年ブラン%	増率%
鋼	一九三五五年全年	對年ブラン%	増率%
展鐵	一九三五五年全年	對年ブラン%	増率%
貨物自動車	一九三五五年全年	對年ブラン%	増率%
機關車	一九三五五年全年	對年ブラン%	増率%
貨車(二軸換算)	一九三五五年全年	對年ブラン%	増率%
トラクター	一九三五五年全年	對年ブラン%	増率%
コムバイン	一九三五五年全年	對年ブラン%	増率%

在オデッサ日本領事館

黒銅 八七八
 アルミニウム 二五千噸 七九八
 セメント 三七六六 八五五
 硫酸 九五一 八三一
 磷酸肥料 九八〇 九七〇
 重工業諸部門中石炭、石油ハ最も不良ナリ
 △ 石炭ハ本年上半年ハ前年ニ比シ一二六%増ナルモ豫定ニ比シ約三百萬噸ノ採炭不足、第三期ニ入り「スタハノフ」運動ノ出現ト共ニ其一晝夜平均採炭量ハ
 九月 第一旬 千噸 第二旬 千噸 第三旬 千噸
 二八〇 二八五 二九四
 十月 三〇五 三一〇 三二〇
 ト増加シ恢復ノ傾向ヲ示セルモ尙九ヶ月間採炭不足高ハ六百五十萬噸ニ上リ最モ好調ナリシ十月モ月「プラン」ノ八七一%ニシテ結局十ヶ月合計ニテ年「プラン」ノ七八一%ヲ遂行シ本年計盡通りノ採炭ハ困難トセラル

在オデッサ日本領事館

△ 石油ハ一九三四年ハ「プラン」ノ八五%ニシテ甚タシキ不振ヲ示シ又本年年初來依然業績面白カラス上半年生産高ハ前年ニ比シ僅ニ二五%ヲ増加セルノミナリ第三期ニ入りテモ何等改善セラレズ九月ノ採油量ハ前年同月ニ劣リ十ヶ月成績ハ年「プラン」ノ七九二%、前年ニ比シ僅少ノ増産ナリ石炭同様本年「プラン」ノ實行ハ覺東ナシトセラル
 △ 製鐵業ハ十ヶ月間二年「プラン」ノ八五一%、前年同期ニ比シ二八七%ノ増産ニシテ概シテ良好ナリト云フヘク就中銜、展鐵ノ生産カ從來ノ不振ヲ脱シ殊ニ九月以來急増スルニ至レルハ注目ニ價スヘク兩者共十ヶ月間ノ生産高ハ一九三四年全年分ヲ超過セリ製鐵業ノ一晝夜平均生産高ハ左ノ如シ(單位千噸)
 銜鐵 展鐵
 七月 二九五 二五一 一六八
 八月 二九九七 二六二 一七六
 九月 三〇五 二七八 一九四

在オデッサ日本領事館

△ 本年二月「カカノウイチ」交通人民委員就任以來鐵道運輸ノ改善ニ専心シ相當ノ成績ヲ舉ケ居ル處車輛製造方面ニ於テモ年初ヨリ豫定超過ノ好績ナリ即チ機關車ハ前年ニ比シ五〇・八%、貨車ハ一七三・三%ノ激増ナリ貨車製造ハ本年一月ノ二千台ヨリ四月ニハ七千四百台ニ進ミ更ニ九月ニハ九千九百台トナリ最高記録ヲ作レリ
 尙一月一十一月間ノ機械生産高ハ重工業部機關紙ニ依ルニ左ノ如シ

貨物自動車	台	一九三四年	一九三五年
トラクター	台	四九三〇〇	六九四七一
コムバイン	台	八四六四四	一〇一六〇一
機關車	台	八〇九六	一九七五五
貨車(二軸換算)	台	一〇三八	一四一六
		三〇九六六	八六五二一

三、新企業

新企業ノ作業開始ニ關スル本年七月十二日附聯邦政府決定ニ依レハ

在オデッサ日本領事館

本年中作業ヲ開始スヘキ新企業總價格ハ二百二十三億七千五百萬留ニシテ其内重工業部關係七十三億留、輕工業部關係七億三千萬留、食品工業部關係七億三千八百萬留ノ豫定ナリ
 九ヶ月間ニ於ケル作業開始ノ成績ハ「プラン」(金額)ノ六七%ナル處其主要ナルモノ左ノ如シ

重工業	製鐵關係	熔鑪爐(十月一日現在)	二基	豫定	六基
		マルテン爐(十月十五日現在)	一六基		三四基
		展鐵台(十月一日現在)	一〇基		二七基
		鐵管台(同上)	四基		
		コークス釜(十月十五日現在)	四基		
石油關係			八ヶ月間		六三九鑿坑
輕工業					六企業
林業					二五件

在オデッサ日本領事館

四 本年工業ノ特徴

本年十ヶ月間ノ蘇聯邦工業狀態ヲ通觀スルニ從來當局ノ最モ傷心セ
ル作業ノ季節性ハ大體清算セラレタル如ク例年ノ夏期ノ不振モナク
一期ハ一期ト生産ハ増加シ對年「プラン」七四%ノ近來ニナキ好績
ヲ收メタルハ偉トスヘク之ニ依リ二、三部門ヲ除キ本年計畫完行ノ
見込モツキタリ

右好調ノ原因ハ運輸カ正調トナリ原料ノ供給狀態カ頓ニ改善セラレ
タルニ因ルモノナルモ亦工業組織自體内ニ於ケル素因モ看過シ得ヘ
カラス即チ

- (一) 從來工業生産ハ量的製造ノミニ注意シ企業ノ經營如何ニ付テ
ハ殆ント顧慮セラレサリシ傾向アリタルモ本年ハ企業ノ經營、
其収益性ニ留意シ既ニ多數企業ハ政府ノ補助金ヲ拒絶シ獨立會
計ノ經營ニ移リ收益ヲ擧ケツ、アルコト
- (二) 工業従業員ハ大ニ増加シ現在大工業ニ従事スル者ノミニテモ

在オデッサ日本領事館

六百萬人ニ及ヘルコト

- (三) 殊ニ熟練工、専門家ノ増加著シク「スタリン」ノ提唱セル「
工業建設ノ鍵ハ人ナリ」一技術習得」等ノ標語ハ實際化セラレ
ルニ至リ「ドンバス」炭坑夫「スタハノフ」ノ模範ニ倣ヒ全聯
邦ニ「スタハノフ」運動波及セルコト

- (四) 右「スタハノフ」運動ノ普及ニ依リ労働組織、機械利用ハ著
シク改善合理化セラレツ、アルコト

其結果九月下旬以來工業各方面ニ於ケル生産ハ著増シ本年計畫
ハ豫定超過ノ見込ニテ更ニ或ル方面（機械製造、製鐵等）ニ於
テハ五年計畫ヲ四年間ニ遂行スヘントノ聲起ルニ至レリ

- (五) 工業ノ好調ハ政府ノ政策ト相俟チテ労働者ノ生活改善ニ寄與
シ更ニ此ノコトハ労働者ノ其本務ニ對スル熱意ヲ倍加セルコト
本年上半年間ニ於テ一ヶ月平均勞銀ハ前年ニ比シニ七%増ナリ
而シテ本年十ヶ月間ノ蘇聯邦工業ノ弱點ハ石炭、石油、輕工業ノ不
振ナリトス

(以上)

在オデッサ日本領事館

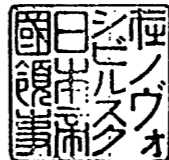
歐亞局

普通第一號

昭和十一年一月十六日

在ノヴオシビルスク

西塔事務代理



外務大臣 廣田弘毅殿

「第七回ソヴイエト社會主義共和國聯邦中央執行委員會ニ於ケル地方執行委員會議長代理「ヴオロニン」氏ノ西部シベリヤノ工業及農業ニ關スル演說」報告ノ件

首題ノ件ニ關シ一月十六日附當地機關紙「ソヴイエトスカヤ、シベリ」ハ別添ノ如キ記事ヲ掲載シ居レリ
右何等御參考迄報告申進ス

昭和十一年貳月拾七日接収

CII

一九三五年後半ニ於テ「スタハノフ」運動起リ社會主義建設ノ凡ユル部門ニ對シ著シキ影響ヲ與ヘタルハ既ニ周知ノ事實ナルモ西伯利亞ニ於テハコレカ影響頗ル大ニシテ特ニ西部西伯利亞ニ於イテ最も著シク 帝政時代ニアリテハ犯罪人流刑ノ地タリシ西伯利亞ハ今ヤ有力ナル工業及農業地方ト化セリ
極東ニ於ケル採炭量増加ノ證左トシテ吾々ハ二ツノ事實ヲ舉クルニ
一 西サカテナイ 即チ一九一三年迄ハ現在ノ「クズバス」地方ニ於ケル採炭量ハ年産額八百七十八萬トンニシテ一九二〇年西伯利亞カ「コルチャク」政權ヨリ開放サレシ第一年目ニハ九百五十九萬トンナリシ處一九三五年ニ於テハ一躍一億四千二百萬トンニ増加セリコノ數字カ何ヨリ雄辯ニ事實ヲ物語ツテ居ル
西部西伯利亞ニ於テハ極メテ短期間ノ中ニ石炭、冶金、化學、亞鉛、金及織物工業ノ各物門ニ於テ長足ノ發展ヲ見ルニ至ツタ

第十回同業大會ニ於ケル「スターリン」ノ所謂「クズバス」ヲ第一
 二ノ「ドンバス」ヘテフ標語ヲ實行シ吾々ハコ、ニ中央執行委員會
 ニ對シ我國東部ニ於テ最モ優秀ナル且ツ新シイ技術ヲ具備セル有
 カナル炭田ノ存在スルコトヲ確信ヲ以ツテ斷言シ得ルノテアル
 一九三五年「クズバス」於ル一人一交代時間（註一六時間）ノ平均
 採炭量ハ一、六トン同年九月ニ於テハ一、八一トン「プロコビエフ
 スキー」坑ニ於テハ二、二一トナリ 十月ニ於テハ「クズバス」
 一、八六トン「プロコビエフスキー」二、三五トナリ
 今コ、ニ各國ニ於ル採炭量ヲ列舉比較スレハフランスニ於テハ一人
 一交代時間ノ採炭量ハ〇、八〇トン「アツプ、シレジヤ」一、七六
 トンニシテ「クズバス」ニ於ル採炭量ハ英佛ヲ凌駕シ 一九三五年
 後半「スタハーノフ」運動ノ結果獨乙ヲモ凌駕セリ
 客年末「モスコ」ニ於ケル「スタハーノフ」大會ニ於テ「スターリ

ン」ハ空孔機ニ關シ言及セルモ我々ハコ、ニ我カ「クズバス」地方
 ニ於テ遺憾ナク其ノ全能力ヲ發揮シ居ルコトヲ明言シ得ルノテアル
 最近ノ空孔機ノ活動狀態ニ關シニ言スレハ 一ヶ月一台ニテ五千三百
 四十トンヲ採炭シ且ツ技師ハ一萬五千トンヲ舉ケ外國ニ於ケル標準
 ヲ遙ニ凌駕シテ居ル
 以上ノ如ク生産能力ノ増加ト「スタハーノフ」運動ノ發展ト共ニ勞
 働者ノ勞働賃金モ層加シ居ルノテアル
 同志「スターリン」氏カ「クズバス」ニ對シテ一九三六年中ニ一億
 七千八百八十萬トンヲ採掘スル計畫ヲ發表セルニ吾々ハ右計畫ヲ遂
 行スルノミナラス尙コレ以上層加ヲハカラネハナラス
 最モ優秀ナル技術ヲ有スル採炭、冶金、化學、農業及其ノ他ノ産業部
 門ニ於テ養成サレタル幹部ハ今後西部「シベリヤ」地方ノ農業發展
 ト「クズバス」カ第二ノ「ドンバス」ト化スル爲ニ戰フ戰士テアル

我國ニ於ル工業及他ノ産業ノ急激ナル發展ト相關連シテ吾々ニ新都市建設テフ大問題カ課セラレテ居ル 而シテ我カ西部「シベリヤ」ニ於ル大部分ノ都市ハ聯邦政府ノ助力ト産業開發ノ結果勃興セルモノテアル

一九二九年初ヨリ西部「シベリヤ」ニ於ル人口ハ七十二萬五千人ヨリ百六十三萬七千人ニ層加セリ而シテ住宅ノ建設ハ人口ノ急激ナル層加ノ爲不足ヲ來シ特ニコノ現象ハ「クズバス」ニ於テ最モ顯著ナルモノカアル

吾々ハ聯邦政府ノ^{努力}ニ依リ西部「シベリヤ」地方ニ於テ新都市ノ建設住宅ノ建設並ニ自治制ノ制備カ善處サレンコトヲ熱望シテ止マナイ次第テアル

勞働生産能力カ全般的ニ向上シ産業生産品及農産物カ豐富トナリシ^{結果}吾々ハコレカ貯藏ト品質ノ向上トヲ研究シナケレハナラナイ

CII

一九三五年ニ於テ吾々ハ穀物貯藏用トシテ「シベリヤ」ニ數十萬トシテ貯藏シ得ル倉庫二百二十ヲ建設セルモ此等倉庫ハ何レモ構造簡單ニシテイサ、カモ機械化サレテナイ故ニコレヲ機械化シ科學的設備ヲ有スルモノトナシ種子ノ品質ノ向上ヲ計ラナケレハナラナイ

斯ルカ故ニ吾々ハ倉庫建築ニ關シテハ機械化道程ヲ^速ルヲ必要トス殊ニ種子貯藏ニハ優秀ナル脱穀機ト乾^穀機トカ必要ニシテ特ニコレハ極東地方ニ於テ然リ

畜産ノ發展進歩ニ關シ我々ハ一九三六年ニ於テコレカ生産品ノ改良ト品質向上トヲ考究セネハナラヌ

西部「シベリヤ」ニ於テハ一九三三年初頭ヨリ畜産ハ全般的ニ生産能力ヲ層大シ一九三三年ヨリ三五年ニ至ル三ヶ年間ニ牛五五、二^一パーセント^増、羊五一、四^一パーセント^増ハ三倍以上夫々層加セリ

吾々ハ國家ニ大量ノ畜生産品即チ肉、バター、獣毛、皮革及其ノ

CII

他ノ製品ヲ供給シ得ルモ其カ爲ニ我々ハ之ヲ産物ノ加工、殊ニ食用肉ノ綜合工場ノ建設及冷蔵装置ノ設備ヲ痛感シ且ツ其カ完成ノ曉ニハ西部「シベリヤ」ニ於テ食料品生産ノ層加ヲ見ルコトハ燈ヲ見ルヨリ明ラカナリ 此カ實現ニハ同志「ミコヤン」氏ノ絶大ナル援助ト一方「スターリンスク」ニ食用肉綜合工場及「クズバス」ニ冷蔵庫建設ヲ熱望シテ止マナイ次第テアル 同志「モロトフ」ハ「ソヴィエト」産業ノ改良ヲ自己ノ報告演説中ニ特ニ強張シテ居ル

「ソヴィエト」産業改善ノ根本問題ハ幹部ノ撰擇、強化及養成ニアリ吾々ハ西部「シベリヤ」ニ於テ一九三六年中ニ幹部養成ノ確固タル計畫ヲ樹立シ且ツコレカ養成所及學校ヨリ一萬七千人ノ幹部及活動分子ヲ輩出スヘク企圖シ居ルモ此カ實現ノ根本事ハ的確周密ナル「プラン」ト財政計畫ヲ立テ且ツコレヲ強行ニ實行スルニアリ

吾々ハ常ニ祖國ノ邊境タル極東ノ隣人ニ助力セネハナラヌ又特ニ

CII

此ノ役割ハソ聯邦ト密接ナル關係ヲ有スル日本カ侵略政策ヲ維持シテ居ル限り殊ニ痛切ニソノ必要ヲ感スルモノテアル

我國ノ労働者、コルホーズニツク及他ノ凡テノ勤勞大衆ハモシ出及政府カ入要ノ際ハ彼等ニ優先權カ與ヘレ且ソ生活ノ保證カ與ヘラレルコトヲ信シテ疑ハナイノテアル 吾々ノ「トラクター」運轉士

「コンバイン」労働者及機械労働者等ハ赤軍ノ嚇々タル戰車操縦者テアリ常勝ノ闘士テアル 而シテ彼等ハ一朝有事ノ際ハ國防人民委員長「ヴォロシロフ」氏指揮ノ下ニ進軍シ敵ヲ粉碎シ得ルノテア勤勞大衆諸氏ノ政權ヲ擁護セヨ而シテ 中央執行委員會及賢明偉大ナル「スターリン」ノ國民ヲ擁護セヨ

吾人ハ偉大ナル「スターリン」ヲ愛シ彼ノ心身ヲ安泰ナラシメ且ツ賦身のニ「コムニズム」ノ最后ノ勝利ヲ得ルヘク闘フ者ナリ

CII

本信寫送付先 在蘇大使

歌臣局

第一課

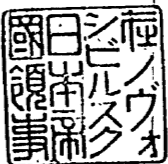
昭和十一年一月二十八日

大島

昭和十一年一月二十八日

在ノゾオシビルスク

西塔事務代理



大臣官房文書課御中

第七回「ソゾイェト」社會主義共和國聯邦中央執行委員會

ニ於ル地方執行委員會議長代理「ゾオローニン」氏ノ西部

「シベリヤ」ノ工業及農業ニ關スル演說報告ノ件

本件ニ關スル客月十六日付普通公第二號通信報告中「クズバス」

地方ニ於ケル年採炭額ニ付數字上ノ誤謬ヲ發見セルニ付左ノ通り

訂正追報ス御訂正相成度シ

E.Y.O.31

左記

一、極東ニ於ル採炭量増加ノ證左トシテ吾々ハニツノ事實ヲ舉ケルニ各サカテナイ 即一九一三年迄ハ現在ノ「クズバス」地方ニ於ル採炭量ハ「以下」次ノ如ク改ム

「年産額八十七萬八千噸ニシテ一九二〇年西伯利亞カ「コルチャク」政權ヨリ開放サレシ第一年目ニハ九十五萬九千噸ナリシ處一九三五

ニ於テハ一躍一千四百二十萬噸ニ増加セリ」

二、同志「スターリン」氏カ「クズバス」ニ對シテ一九三六年中

ニ「以下」次ノ如ク改ム

以上

CH

CH

主信	4	2	6
附甲	1	1	1
附乙			
附丙			
附丁			

要寫一部

後通商局

備考 類 E 六 八 〇 三

文書課長 〇〇〇

文書課發送 昭和拾壹年參月 六日發送済

主 歐亞局長 / 任 第一課

歐一普通合第 六六七 號 昭和拾壹年參月四日附 附屬

件 一 件 「ソ連邦重工業成績ニ関スル」

名 人 信 發 東郷 歐亞局長

名 件 録 記 外國工業地誌

本件ニ關シ今般在「オデッサ」平田領事ヨリ別紙寫ノ通報告アリタル

ニ付御參考ノ爲右茲ニ送付ス

本信送付先 陸、參、海、軍

(昭和十年十二月 六日附在オデッサ館來下在機第二二三三 號寫並附屬書添附)

外 務 省

4 131

主信	4	1	1
附甲	1	1	1
附乙			
附丙			
附丁			

要寫一部

要寫一部

備考 E 六 八 〇 三

文書課長 〇〇〇

文書課發送 昭和拾壹年貳月廿四日發送済

主 歐亞局長 / 任 第一課

歐一普通合第 六六三 號 昭和拾壹年貳月廿四日附 附屬

件 一 件 「ソ連邦重工業成績ニ関スル」

名 人 信 發 東郷 歐亞局長

名 件 録 記 外國工業地誌

本件ニ關シ今般在「オデッサ」平田領事ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ付御參考ノ爲右茲ニ送付ス

本信送付先 陸軍省、參謀本部、海軍省、軍令部

(昭和十一年 一月十六日附在ルスク 館來(在機第二二三三 號寫並附屬書添附)

外 務 省

21 17

主信	4	2	6
附甲	1	1	1
附乙			
附丙			
附丁			

要寫二部

後通商局一

文書課長 〇〇〇

文書課發送 昭和拾壹年參月 六日發送済

主 歐亞局長 / 任 第一課

歐一普通合第 七六七 號 昭和拾壹年參月四日附 附屬

件名 「聯邦重工業成績」関スル

本件ニ關シ今般在「オデッサ」平田領事ヨリ別紙寫ノ通報告アリタル

ニ付御參考ノ爲右茲ニ送付ス

本信送付先 陸、參、海軍

(昭和十年十二月 六日附在オデッサ館來(在)機第二二三三 號寫並附屬書添附)

外務省

發信人	東郷 歐亞局長
受信人	外國工業地誌子小

正校(原稿) (淨書) 〇〇〇

昭和十一年三月三日起草

4 131

別紙

主信	3	1	1
附甲			
附乙			
附丙			
附丁			

要寫一部

文書課長 〇〇〇

文書課發送 昭和拾壹年貳月廿四日發送済

主 歐亞局長 / 任 第一課

歐一普通合第 六六三 號 昭和拾壹年貳月廿四日附 附屬

件名 地方執行委員會議長代理「ヴォロニン」の「西部シベリヤ」ノ工業及農業ニ関スル演說報告ノ件

本件ニ關シ今般在「ヴォロニン」西塔事務代理ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ

ノ爲右茲ニ送付ス

本信送付先 陸軍省、參謀本部、海軍省、軍令部

一月十六日附在ルスク館來(在)機第二二三三 號寫並附屬書添附)

外務省

發信人	東郷 歐亞局長
受信人	陸軍省、參謀本部、海軍省、軍令部

正校(原稿) (淨書) 〇〇〇

昭和十一年二月十八日起草

21 17

別紙

分類 E 9.520.31

歐亞局

公第 七四 號

昭和十一年四月十日

在武市

領事代理 下村 未郎



外務大臣 有田 八郎 殿

一九三六年ニ於ケル蘇聯邦ノ重工業ト題スル

記事摘譯ノ件

本件記事何等御参考迄別添ノ通摘譯報告ス（一九三六年二月十五日刊「ウオリシエグイク」第四號誌上ニ「エス・クルグリコフ」ノ名ヲ以テ所載）

本信寫送附先

第

件
多
録
せ
氏

昭和十一年五月五日 接受

在ブラゴウエスチエンスク日本領事館

在蘇大使
在滿大使

在ブラゴウエスチエンスク日本領事館

E-2041

一九三六年ニ於ケル蘇聯邦ノ重要工業目次

一、總説
二、電力
三、石炭
四、重油
五、泥炭
六、片岩
七、黑色金屬
八、有色金屬
九、機械製品
(一) 製作用機械
(二) 輪轉材料
(三) トラクター

在ブラゴウエヌチエンスク日本領事館

一〇、化學工業品
(一) 肥料
(二) 人造護謨
(三) 硫酸
(四) 金屬製品
(五) 其ノ他製品
一一、結論

在ブラゴウエヌチエンスク日本領事館

一九三六年ニ於ケル蘇聯邦ノ重工業

一、總説

一九三六年ニ於ケル蘇聯邦重工業ノ計劃總生産高ハ三、三五五
 百萬留ニシテ一九三五年ニ比スレハ二六〇%増第一五箇年計
 劃ノ最終年タル一九三二年ニ比スレハ二二倍増タリ
 今一九三二年以降前年ニ對スル各年ノ生産絶對增加高ヲ示
 セハ左ノ通(單位百萬留)

一九三三年	一九三四年	一九三五年	一九三六年(計劃)
一、五八〇	四、二八四	五、〇〇〇	六、四七三

以下主要部門別ニ付檢討セン

二、電力

國民經濟全部門ノ發電量ヲ三三〇億「キロワット」時タラシ
 ノ一九三六年ニ對スル第二五箇年計劃發電量課題ヲ

在ブラゴウエヌチエンスク日本領事館

一三億「キロワット」時超過セシメサルヘカラス一九三二年ニ於ケル發
 電量ハ八八億六千萬「キロワット」時ニ過キサリキ今ヤ蘇聯
 邦ハ發電量ニ於テ歐羅巴ニ於テハ獨逸ト第一位ヲ爭ヒ
 世界ニ於テハ第二位ヲ爭フニ至ル今若シ一九三六年ノ水力
 發電量ヲ四〇億「キロワット」時タラシムレハ二五百萬噸ノ
 燃料節約トナル依テ一九三六年ニハ「ウォルガ」「ウグリチ」「ル
 イビンスク」「ヘルム」等ニ水力發電所建設ノ大工事ヲ見同時
 ニ「ウォルガ」流域及「サマラ」流域ニ調査^{作業}干事行ハレン

三、石炭

一九三六年ノ採炭量ヲ一三五百萬噸タラシムレハ一九三六年ノ
 課題ハ八百萬噸ハ超過遂行トナル大炭田「ドネツキー」ニ
 於テハ前年末ヨリ五箇年計劃四箇年遂行ノ鬭争開始
 セラル尚一九三六年ニハ「ドンバス」ノ採炭量ヲ八〇百萬噸

在ブラゴウエヌチエンスク日本領事館

東部炭田ノ「クヅネツキ」カラガンヂンスキー及「ウラル」炭田ノ「チエリヤビンスキー」「キゼロフスキー」ノ採炭量ヲ二九・九百萬噸タラシメテ「スターリン」ノ提言セル如ク「クツバス」ヲ第一ノ「ドンバス」タラシムルニ努メ炭鑛業ノ機械化水準ハ採炭及送炭ニ於テハ七〇% 運炭ニ於テ七二%ニ達セシメサルヘカラス炭鑛夫一人ノ年平均採炭高ハ一九三一年ニハ一九六噸一九三二年ニハ稍減少シ一九二六噸一九三三年ニハ約一〇噸五〇% 増ノ二〇六・七噸一九三四年ニハ三〇噸一四・五〇% 増一九三五年ニハ三六・九噸一五・五〇% 増ノ二七三・六噸ナルカ一九三六年ニハ七五・六噸二七・五〇% 増ノ三四九噸タラシメサルヘカラス重工業人民委員部「トラスト」ノ一九三六年ニ於ケル年計劃採炭高ハ一二五・二百萬噸ニシテ年平均日産高ハ三四八千噸トナリ居ル處一月ノ平均日産高ハ三四二・四千噸一月ノ第三旬日

在アラゴウエスチエンスク日本領事館

ニ於ケル平均日産高ハ三四九・一十噸ナルヲ以テ平均日産高ハ既ニ一月ニ年計劃ノ水準ニ到達セルモノト云フヘシ又「ドネツキ」炭田ニ於テハ一月ノ平均日産高ハ二二千噸ヲ示シ五箇年計劃四箇年遂行實現ノ水準ニ到達セリ今ヤ炭鑛業ハ「スタハート」ノフ」運動ヲ展開シ先進工業部門ノ列ニ加入シツツアリ

四、重油

一九三六年ノ重油工業ニ對スル投資額ハ一一〇百萬留ト豫定セラル、處採重油量ハ一九三五年ニ比シ二〇% 増ノ三〇百萬噸石油ハ一三〇% 増ノ五、五六〇千噸「ベンジン」及「リグロイン」ハ二七〇% 増ノ三、九二〇千噸タラシメサルヘカラス尚一九三六年ニハ「エムバ」「アクチエビンスク」鑛道ノ建設ニ着手セラルヘキ處愈々、鐵道建設ノ曉ニハ豊富ナル油田ヲ他地方ト聯絡

在アラゴウエスチエンスク日本領事館

シ其ノ發達ニ資スル所アラン「バシユキル」炭田ニ於ケル一九三六年ノ採量油量ハ一百万噸ト豫見セラル

五、泥炭

一九三六年ノ採泥炭量ハ之ヲ二百萬噸タラシメ以テ發電用燃料ニ資スル所アラシムヘシ

六、片岩

一九三六年ノ採片岩量ハ八五〇千噸ト豫定セラル燃料問題ヲ緩和スルト共ニ化學的利用及其ノ灰燼ノ建築材料トシテノ利用法ヲ講セサルヘカラス

七、黑色金屬

一九三六年ノ黑色金屬生産高ハ一九三六年ニ對スル第二次五箇年計劃ノ課題ヲ超過遂行スルトナリ居レリ即ケ銑鉄ハ課題ヨリ五〇〇千噸多ク一四、五百萬噸鋼鉄ハ一

在アラゴウエヌチニンスク日本領事館

二百萬噸多ク一六百萬噸展鉄ハ一百万噸多ク二、二百萬噸ノ生産ヲ見シ今ヤ蘇聯邦ハ黑色金屬生産高ニ於テ歐羅巴ニ於テハ獨逸ト第一位ヲ争ヒ世界ニ於テハ第二位ヲ争フニ至ル一月ニ於ケル銑鉄ノ平均日産高ハ前年十二月ノ水準ヲ超過シ三八一十噸一月ノ第三旬日ニ於ケル平均日産高ハ四〇、四千噸トナリ一月ニ於ケル鋼鉄ノ平均日産高ハ四二、四六千噸一月ノ第三旬日ニ於ケル平均日産高ハ四五、四八千噸トナリ居レリ然ルニ鋼鉄ノ生産五箇年計劃四箇年遂行ヲ實現セントセハ鋼鉄ノ平均日産高水準ヲ四六、六千噸迄引上ケサルヘカラス展鉄ノ平均日産高ハ一月中ニ三四、五六千噸ノ水準ニ達シ一月ノ第三旬日ニ於ケル平均日産高ハ四〇千噸トナリ居レリ依テ年産額ハ一四、四百萬噸トナルヘク從テ一九三七年ニ對スル第二次五箇年計劃ノ課題一三百萬噸

在アラゴウエヌチニンスク日本領事館

ラ超過シ展鉄生産五箇年計劃四箇年遂行實現ニ必要ナル平均日産高水準ヲ凌加ス居ルモノト云フヘシ黑色冶金工業ハ鋼鉄及展鉄ニ付テハ五箇年計劃四箇年遂行實現ニ必要ナル能力ヲ具備ス要ハ「スタハーフ」運動ヲ展開スルニ在リ

八、有色金屬

一九三六年ノ有色金屬生産高ハ之ヲ一九三五年ニ比シ三二〇%増タラシメ内銅ハ四六%増アルミニウムハ一倍半鉛ハ倍加セシムトモ尚且ツ有色金屬ハ不足スルヲ以テ有色金屬冶金工業全線ニ亘リ一億留ニ相當スル建設豫定セラレ居レリ即チ「ウラル」レブダンスキー製鋼所「フリバル」ハシユキー及「ブリヤビンスキー」製鋼合同「ウラル」アルミニウム製造所ノ建設「カザクスタン」及「アルタイ」ニ於ケル金

在ブラゴウエヌチエンスク日本領事館

屬鑛根據地ノ開發「ニツケル」製造所ノ建設其ノ他貴金屬ノ産額増大計劃等之ナリ尚特ニ立達シ居ル此等部門ノ「スタハーフ」運動進展ノ要アルハ論ヲ俟タス

九、機械製品

一九三六年ノ機械製品生産高ハ一九三五年ニ比シ三一%増ノ一六五億留タラシメサルヘカラス第一次五箇年計劃末年ノ機械製品生産高ハ六五億留ニ過キサリキ
以下主要機械製品別ニ付検討セン

(一)製作用機械

一九三六年ノ製作用機械製造數ハ三二千ヲ豫見ス第二次五箇年計劃末年ニ於ケル製作用機械ノ現在數ハ一八一千ニ過キサリキ尚一九三六年製造ノ製作用機械ノ型ハ計劃ノ二〇〇種ニ對シ二五〇種ヲ豫見シ居レリ

在ブラゴウエヌチエンスク日本領事館

(二) 輪轉材料

一九三六年ノ機関車製造數ハ之ヲ一九千輛タラシメサルヘカラス
内「ウオシワグランドスキー」工場ノ六七五輛「ハリコフ」及「ク
ラスヌイ、プロフィンテルン」工場ノ五〇〇輛ヲ主要ナルモノトス同
様客車製造モ増大ヲ見ン貨車ハ八〇千輛製造ノ豫定
ナリ第二次五箇年計劃ノ當初五五〇千車ヲ數ヘタル貨車ハ
第二次五箇年計劃ノ四箇年間ニ二一〇千車四〇％ノ増加
ヲ示セリ

(三) 「トラクター」

一九三六年製造ノ「トラクター」總馬力ハ二、三、四、千馬力ノ豫
定ナルヲ以テ第二次五箇年計劃當初ノ總馬力ハ二、二、
五千馬力ヲ超過スルコトナル一九三六年一月一日現在農
村經濟「トラクター」廠ノ總馬力六、五、百萬馬力ハ一九

在ブラゴウエヌチエンスク日本領事館

三六年末ニハ八、五、百萬馬力ニ増大シ農村經濟ノ機械化遂
行ハ第二次五箇年計劃ノ課題ヲ超過遂行セン

(四) 農具

一九三六年ノ農具製造高ハ九、二、百萬留ト豫定セラル第
二次五箇年計劃四箇年間ノ製造高ハ二、二、億留トナル第
一次五箇年計劃全年ノ製造高ハ一、六、億留ナリキ

(五) 「コムバイン」

一九三六年ノ「コムバイン」製造數ハ六、一、千ヲ豫見ス第二次五箇
年計劃當初ニ於ケル農村經濟ノ「コムバイン」數ハ一、四、五、
千ニシテ一九三六年當初ニ於ケル現在數ハ五、二、五千ナリ依
テ一九三六年中ニ「コムバイン」數ハ倍加スルコトナル一九三五年
ノ實績ニ徴スルニ六、六、萬ノ「コムバイン」ハ穀粒一、二、百萬「ヘクター」
ヲ收獲スルニ足ルヲ以テ一九三六年ニハ「ソフホーズ」ノ穀粒ハ

在ブラゴウエヌチエンスク日本領事館

九八%「コルホーズ」ノ穀粒ハニ%「コムバイン」ニテ收穫セラルト
 コトナラン一九三四年「コムバイン」ニ依ル「コルホーズ」ノ穀粒收
 獲高ハ僅ニ二三%ニ過キサリキ

(六) 機織機械
 機織機械ノ製造費ハ一年間ニ倍加シ一九三六年ノ製造費
 ハ三二四百萬留トナリ居レリ

(七) 食料品工業設備品
 食料品工業設備品ハ三分ノ二加増シ一九三五年ノ四八百萬留
 ニ對シ一九三六年ハ八〇百萬留ヲ豫見ス

(八) 自動車
 一九三六年ノ自動車製造數ハ一六一、五千台ニシテ内貨物自
 動車製造數ハ歐羅巴ニ於テ第一タリ

一〇. 化學工業品

在ラゴウエヌチエンスク日本領事館

一九三六年ノ化學工業品生産高ハ一九三五年ニ比シ一九%増ノ
 四、二六二百萬留タラシメサルヘカラス

以下主要品別ニ付檢討セン

(一) 肥料
 化學工業品中生産高著増セルハ農村經濟ノ肥料トス
 一九三二年ノ肥料製造高二、四二五千噸ニ對シ一九三六年ハ
 三、二〇〇千噸ヲ豫見ス内窒素及「カルシウム」肥料ノ製
 造高ハ特ニ急増ヲ見ン

(二) 人造護謨
 一九三六年ノ人造護謨製造高ハ四二千噸ヲ豫見シ第二次
 五箇年計劃當初ノ需要額ヲ超過スルトハ云ヘ其ノ後増
 大セル現需要額ハ之ヲ充足シ能ハサルヲ以テ此ノ上トシ斯
 界發展ノ方法ヲ講セサルヘカラス

在ラゴウエヌチエンスク日本領事館

(三) 硫酸
 一九三五年ノ九九五千噸ニ對シ一九三六年ニ八一三〇〇千噸製造ノ豫定ナリ

(四) 金屬製品
 過去三箇年間ノ製品高一五億留ニ對シ一九三六年ニ八一億留ノ製品ヲ豫見ス

(五) 其他製品
 自轉車ハ八〇〇千台蓄音機ハ同シクハ〇〇千台蓄音機「レコード」ハ五〇百萬枚寫真機ハ二一十個「ラヂオ受信機」ハ五〇千個「ラヂオ」用電燈ハ七百萬個「ミシン」機械ハ四五〇千台電燈ハ一一五百萬個上靴ハ八五百萬足夫々製造ノ豫定ナリ

二、結論

在ブラゴウエヌチエンスク日本領事館

三三億ニ亙ル一九三六年ノ尨大ナル建設計劃ハ以テ生産力ノ整備ヲ保障スルニ足ラン一九三一年ノ建設計劃ハ一九三六年ノ二分ノ一ニ過キサリニ國外ヨリノ新整備品輸入額ハ六億留一九三二年ニハ四億留ナリシモノ一九三五年ニハ六千萬留ニ激減セリ

最後ニ一九三六年中ニ擴大建設操業開始ヲ見ルハキ主ナル工場ヲ學科レハ石ノ通

莫斯科及「ゴリコフ」自動車工場「ウラル」車輛工場「オルスキ」機關車工場「スターリン」及「ハリコフ」トラクター工場等トス

在ブラゴウエヌチエンスク日本領事館

引換

公普通第〃〃號

昭和十一年六月七日

在「ソヴェエト」聯邦

特命全權大使 大田



外務大臣 有田 八郎 殿

一九三六年度「ソ」聯重工業新規計畫ニ關スル件
本件ニ關シ六月二日附「ジュルナル」ド、モスコ「紙ニ掲載セラレタル記事何等御參考迄左ニ抄譯報告ス
政府ハ今般一九三六年度重工業人民委員部關係新規計畫ヲ承認セルカ右ハ第一次及第二次五ヶ年計畫ヲ通シテ營テ見サリシ程度ノ

昭和十一年七月壹日 接受

歐亞局

第一課

(赤印紙)

(赤印紙)

充實セル「ソ」聯工業計畫ヲ示ス一九三六年度ニ於テ重工業ハ容
本的建設ニ八十五億留ヲ投ス可ク又建設費九十億七千五百萬留ニ
達スル諸事業ノ運轉ヲ開始スヘシ(第一次五ヶ年計畫ヲ通シテ運
轉ヲ開始セラレタル諸事業ノ建設費百三十一億留ナリキ)
右ノ内特ニ注目スヘキハ新發電所ニシテ一昨年ノ四八一、〇〇〇
「キロワット」客年ノ四六七、〇〇〇「キロワット」ニ比シ本年
度ハ一、〇八七、〇〇〇「キロワット」ノ増加ヲ示ス
石油事業ニ關シテハ新坑井一、六六六ヲ開發セントス(客年ハ一、
一〇五)一九三五年度ニ於テハ新坑井ノ數ハ其ノ前年度ニ比シ僅
カ十七%増加セルノミナルヲ想ヘハ右數字ハ一層興味アルヘシ
原油ニ關シテハ循環管狀汽罐ニ依ル精油所六ヲ新設ス此ノ精製能
力年三百七十萬噸、一九三五年ニ於テハ増加額三百萬噸、一九三
四年ニハ七十萬噸ナリキ
原油分解蒸溜所(「クラツキング」)ハ十六ヶ所新設セラルヘク

此ノ能力年三百二十二萬噸、此ノ數字ハ一九三五年年度ノ増加額（百五十一萬八千噸）ノ二倍半ニシテ第一次五ヶ年計畫中設ケラレタル一切ノ重油精製所ノ能力ニ相當ス石炭業ニ於テハ十八坑新ニ開發セラレヘク此ノ産額年五百七十五萬噸ナリ

製鐵ニ關シテハ一九三五年ト同様熔鑛爐三、新設セラレル豫定ナルカ一九三六年ノ三熔鑛爐ノ容積ハ三、〇二三立方米ニシテ客年設置ノ三熔鑛爐ノ容積（二、七九〇）ニ優リ毎年七十五萬八千噸ノ銑鐵ヲ供スヘシ他方「マーチン」爐一三、展鐵工場一六、製管工場一六設ケラルヘク新展鐵工場ノ生産額ハ年二百五十五萬四千噸ナリ

銅工業ニ關シテハ銅鑛處理工場ノ能力ハ百四十三萬噸増加セラレヘシ其他金屬工業ニ於テハ冶金能力ハ昨年ヨリ百二萬五千噸増加ス鐵以外ノ金屬工業ノ新事業ノ建設費ハ客年ノソレニ比シ二倍増加ス

(赤井氏)

機械工場ニ關シテハ「ウラル」地方ノ「ニジニ、タグイル」ノ汽車工場開始セラレヘク其ノ能力ノ半分ヲ發揮シテ年ニ二萬八千八百ノ貨車（協定單位タル二軸車）ヲ製造スヘシ同様「ウラル」地方「ウーファ」ノ「モーター」工場ハ年産「モーター」二萬臺ヲ製作スヘシ「ヴォロシロフ」汽罐車工場（舊「ルーガン」工場）ノ製造能力ハ年ニ三百臺宛増加セラレヘシ「モスコ」市自動車工場及「ゴリキー」市「モロトフ」自動車工場ハ各々其ノ生産額ヲ三萬臺、十萬臺宛増加スヘシ即之等工場ハ年ニ七萬五千臺、二十萬臺ノ自動車ヲ製造スヘシ

上述ノ如ク一九三六年建設計畫ノ主要要素ハ電力、石油、機械工業ニシテ之等ハ詳細ニ準備セラレタリ斯クテ一方ニ於テハ新規事業ニ依リ他方ニ於テハ「スタハノフ」式勞働ヲ以テ既存工場ノ能率ヲ擧クルコトニ依リ重工業ノ生産力ヲ増進セントス

(赤井氏)

郵政局長
昭和十一年八月廿二日 接收

公第一一一號
昭和十一年七月二十七日

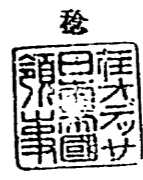
在オデッサ

領事 平田

外務大臣 有田 八郎 殿

蘇聯邦重工業概績ニ關スル件

本年上半年間ニ於ケル蘇聯邦重工業概績ニ關シ左記ノ通り報告申進ス
本信寫送付先 在蘇大使



在オデッサ日本領事館

手
字
EX. 110.31

一九三六年上半年蘇聯邦重工業概績

工業概績

一九三六年上半年蘇聯邦工業總生産額ハ聯邦「ゴスプラン」國民經濟調查局ノ發表ニ依レハ三百二十七億三千八百五十萬留ニシテ年「プラン」ノ四九・二％ニ當リ前年同期ニ比シ三三・七％増産ナリ其内生産手段ノ生産ヲナスA類工業ハ二百三億九千六百七十萬留、前年同期ニ比シ三六・八％増、日用品類ノ生産ヲナスB類工業ハ百二十三億四千八百八十萬留、前年同期ニ比シ二九・〇％増ナリ而シテ本年度蘇聯邦國民經濟計畫ニ依レハ工業總生産額ハ前年ニ比シ二・三〇％、内A類二・六％、B類二・七％増ノ豫定ナルヲ以テ右本年上半年成績ハ豫定以上ノ増産ナリ但シB類工業ハ前年上半年ニ比シ大イニ改善セラレタルカA、B兩工業ノ關係ニ於テハ豫定ニ反シ其増率A類ニ及ハス

在オデッサ日本領事館

次ニ之ヲ人民委員部別ニ示セハ左ノ如シ(一九二六―七年度價格單位百萬留)

内	生産額	對前年同期増率%
聯邦所管工業人民委員部	二五九七五二	三三・五
重工業部	一五七一・九	三七・二
林業部	一五〇・六	一七・〇
輕工業部	三七五六六	三三・九
食品工業部	四一六三・七	三四・二
人民委員會購買付委員會	七六・〇	〇・九
映畫寫眞工業本廳	七八・四	三・〇
聯邦諸共和國所管地方工業部	四二五三・六	三一・五
工業コオベラーチャ	二五〇九・七	四〇・七
計	三三・七三・八五	三二・七

右表ノ如ク重工業部ノ増産率最モ高キ處之ヲ各期別(第一期及第二期)ニ見ルトキハ重工業部ヲ除ク其他工業人民委員部ハ孰レモ第一期ヨリ第二期ト増産セルニ反シ重工業部ノマハ第二期ノ成績第一期

在オデッサ日本領事館

ニ劣ル

ニ 重工業成績

本年重工業部所管企業生産額ハ三・二八〇百萬留、前年ニ比シニ六%増ノ豫定ノ處上半年實生産額ハ一五七一・九百萬留ニシテ年「プラン」ノ五〇・二%ニ當リ前年同期ニ比シ三七・四%増産ナリ

重工業主要部門ノ生産成績ハ左ノ如シ(一月―七月二十日)

	對年プラン%	對前年同期増率%
トラクター	六六・二	九・九
スウベルフオスファト	六三・五	三七・八
コークス	五六・二	二一・五
電力	五五・五	二八・三
鐵鑛	五五・三	八・四
展鐵	五五・二	四・〇
鋼	五四・九	三・〇
銃鐵	五四・七	一・八
石油	五三・七	一・三
硫酸	五三・六	一・九
銅	五二・五	二・九

在オデッサ日本領事館

コムバイン 五二四 九三六
 石炭 五一四 二二〇

前掲表ノ如ク各部門トモ前年同期ニ比シ孰レモ増産ヲ示セルカ本年
 六ヶ月二十日間ニ於ケル生産標準ヲ年「プラン」ノ五五二%トスレ
 ハ前掲表ニ於テ鋼以下ハ孰レモ生産不足ニシテ就中石油、石炭ノ不
 振ハ特ニ注目ニ價スヘシ

△ 石炭

本年度採炭計畫一億三千五百萬噸ニ對シ上半年実績ハ前年ニ比シ二
 三%ヲ增收セルカ年「プラン」ノ半ニ達セス四六四%（内ドンバ
 ス四六九%）ナリ

各月ノ一晝夜平均採炭高ハ左ノ如シ

一九三五年	全聯邦平均		ドンパス
	千噸	千噸	
八月	二八、〇	一七、七一	
九月	二八、六	一七、八二	
十月	三一、三	一九、五七	

在オデッサ日本領事館

一九三六年

十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月	六月
三三、四	三六、二	三五、八	三五、六	三四、七	三四、三	三〇、九	三〇、三
二〇、七	二三、〇	二二、三	二二、〇	二一、〇	二〇、八		

右ノ如ク一晝夜平均採炭量ハ客年十二月ヲ最高トシ以後逐月下降シ
 居ル處右ハ「スタハ」ノ「運動ノ變遷ヲ如實ニ反映スルモノニシ
 テ即チ客年八月末「スタハ」ノ「運動ノ起ルヤ政府ノ百方奨勵ニ
 ヨリ忽チニシテ普及シ採炭量モ之ニ伴ヒ増加シ十二月ニハ八月ニ比
 シ二割九分ヲ増加セルカ爾後同運動ノ下火トナルニ從ヒ採炭漸次低
 下シ本年六月ニハ「スタハ」ノ「運動前ト大差ナキ状態トナレリ

△ 石油

本年度採油計畫三千萬噸ニ對シ上半年実績ハ年「プラン」ノ四八四

在オデッサ日本領事館

%ナリ
 採油量ハ「スタハ一ノフ」運動ノ勃興ニモ拘ハラス客年八月以來サ
 シタル増加ナク本年第一期ハ前年同期ニ比シ一七セ%ヲ増加シ第二
 期ハ之ヨリ落テ上半年間ニテ前年同期ニ比シ一三三%増トナレリ而
 シテ右採油増加ハ「バシキリヤ」、中亞、「エムバ」油田等新油田
 ノ開發擴張ニ因ル處多シ

△ 製鐵
 製鐵ニ關スル本年度計畫ニヨレハ銑鐵一四五百萬噸、鋼一六〇百萬
 噸、展鐵一三二百萬噸ノ豫定ニ對シソノ実績ハ第一期ハ略々「ブラ
 ン」通りヲ遂行、第二期ハ「プラン」ニ及ハサルモ上半年間ニテ前
 年同期ニ比シ銑鐵ハ一九三%、鋼三五五%、展鐵四三六%ヲ増シ且
 生産能率向上ノ方面ニ於テモ相當改良ノ跡アリ先ツ概シテ良好ナリ
 ト云ヒ得ヘキモ最近夏期低下ノ兆候ヲ示シ來レリ
 一晝夜平均生産量ハ左ノ如シ

在オデッサ日本領事館

一九三五年	十一月	三三三	三七二
一九三五年	十二月	三四九	三七二
一九三六年	一月	三八一	三九〇
一九三六年	二月	三八〇	三九五
一九三六年	三月	四〇三	四四四
一九三六年	四月	四〇五	四四七
一九三六年	五月	四〇一	四三二
一九三六年	六月	三九〇	四二五
(廿日間)			
三	「スタハ一ノフ」運動	重工業労働者數	生産高
一九三五年	五月	二四二九	六九一八
一九三六年	五月	二五七四	七五八一
	増率	六%	三五%

「スタハ一ノフ」運動ノ目的ハ生産行程ノ合理化ニヨル能率増進ナ
 ルカ本運動施行ノ結果ヲ見ルニ

在オデッサ日本領事館

ニシテ本年ニ入り生産「ノルマ」ノ引上ケ（平均二〇一三〇%、内製鐵業一三一二〇%、石炭二二一七%、機械製造三五一四〇%）ノ結果労働者一人當リ生産額ハ一九三五年五月ニ比シ本年五月ニハ二七二%増トナリ一五ヶ月間ニテハ三〇一%増ニシテ前年上半年間ノ一五五%ニ比シ大ニ向上セリ

斯ノ如ク客年第四期及本年第一期ノ生産増加ハ「スタハーフ」運動ニ貢フ處大ナルカ第二期以降生産「テムボ」ノ低下ハ之亦「スタハーフ」運動ノ不調ニ起因スルモノナリト云ヒ得ヘシ

右「スタハーフ」運動不調ノ原因ニ關シ重工業人民委員代理「ピヤタコフ」ハ本年六月末開催ノ重工業部「ソウエート」ノ席上ニ於テ「技師團ノ「スタハーフ」運動ニ對スル「サポタージュ」、反抗ハ否定シ難キ事實ナリ」ト前提シ「技師團ニ對スル認識不足竝ニ指導ノ缺陷（一）勞銀制度ノ不備ヲ擧ケ又同席上「オルジョニキーゼ」ハ（一）技師團ノ實技程度低ク「スタハーフ」運動ヲ「リード」シ得サリシコト（二）勞銀制度ノ不備例ヘハ團體出來高制ノ結果優秀労働者

在オデッサ日本領事館

ハ不滿ナルコト（三）技師及「ブリガジール」ノ待遇改善セラレサリシコト等ヲ擧ケ居レリ

要之最近ニ於ケル生産ノ低下ハ（一）政府當局ハ「スタハーフ」運動ヲ以テ一ノ政治的運動ト見做シ技師團ノ存在ヲ無視シテ之ヲ強行セラル爲メ技術的指導者ヲ以テ任スル技師團ノ反感ヲ買フニ至レルコト（二）生産「ノルマ」引上ケノ結果勞銀ハ從來ニ比シ實質的ニ著シク低下シ労働者側ヨリスレハ「スタハーフ」運動ハ一種ノ強制労働ト化シ從テ之ニ對シ漸次興味ヲ失フニ至レルコト等ニ起因スルト云ヒ得ヘク結局政府ノ高調スル如キ「スタハーフ」運動ハ從來ノ「ウダルニク」運動ニ比シ生産行程ノ合理化テフ新味ヲ加ヘタリトハ云ヘ一時的現象ニシテ之ニヨリ高度ノ生産能率ヲ維持スルコトハ現狀ニテハ困難ナルヘシ

又他面建設事業ノ不振（本年五ヶ月成績八年「プラン」ノ二五四%）ノ結果新企業、設備ノ操業遅レ生産計畫ニ支障ヲ來シツ、アルコトハ看過シ得ス

在オデッサ日本領事館

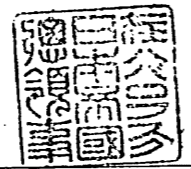
分類 E4.5.0.31

ハバロフスク市内外ノ重要工場ニ關スル件
 第二次五個年計畫實施ノ前後ヨリ極東地方ノ工業建設及軍備鞏化ノ
 目的ヲ以テ「ハバロフスク」市内外ニ各種ノ工場建設セラレタルカ
 其ノ建設及操業狀況等ハ凡テ嚴秘ニ付セラレ居ルヲ以テ外觀又ハ偶
 ニ新聞紙ニ出ツル間接的記事ニ依リ判斷スル外ナシ從テ精確ト詳密
 ヲ期シ難キモ重ナル工場八箇ニ付漸ク別紙ノ通調ヲ遂ケタルニ付

外務大臣 有田 八郎 殿

在ハバロフスク

總領事 島田 正 靖



機密公第一五七號

昭和十一年十月十九日

歐亞局

昭和十一年七月六日 接受

件名 外ハロフスクノ工業建設ニ關スル件

發信用執務用			
主信	4	1	85
附	甲	4	1
	乙		
	丙		
屬	丁		
備考	類 E 4.5.0.31)		

要寫一部 懸案

文書課長 文書課發送昭和拾壹年七月廿壹日發送済

主 歐亞局長 任 第一課 昭和十一年七月廿五日 起草

歐一普通合第 二八九九號 昭 昭和拾壹年七月廿八日 日附 附屬

受 陸軍省磯谷軍務局長
 信 參謀本部渡 第二部長
 人 海軍省豊田軍務局長
 名 軍令部高須第三部長

件 一九三二年度ソソ聯重工業新規計畫ニ關スル件

本件ニ關シ今般在ソソ聯大田大使ヨリ別紙寫ノ通報アリタルニ付御參考 附 右茲ニ送付ス

本信送付先 陸軍省參謀本部 海軍省軍令部

(昭和十一年六月七日 日附在ソソ聯館來(往) 附 第一二三號寫單附屬書)

公 信 案 外 務 省

名 件 録 記 東 郷 歐 亞 局 長

名 人 信 發 外國...

28 154

爲御參考茲ニ送付ス
右報告ス

(中出書記生調査)

本館寫送付先
在蘇聯邦代理大使
在浦潮總領事
在武市領事代理

在ハバロフスク日本總領事館

「モロトフ」造機工場

舊「ダリ、セリ、マシン」工場ヲ改造擴張シタルモノナリ一九三三年工事開始、一九三五年ヨリ操業、新工場ノ規模外觀ハ舊工場トハ全ク一變シタル大工場トナレリ、練瓦建主工場建物九棟(コノ他一棟建設開始)職場數二十以上アリ工場入口ニ面シ練瓦建三階住宅二、木造平家住宅數個アリ
位置、「ハ」市ノ西北端、黒龍江右岸(附近ニハ發電所及精油工場アリ)
操業狀況、製作物ノ内容ニ付テハ詳ナラサルモ本年九月前員カ外部ヨリ視察シタル際工場構内ニ無限軌道附牽引用鋼鐵製「トラクター」八台(完成品)、製品置場ニ橋梁用鋼鐵桁數個及各種鐵板等存置シアリタルカ傳フル所ニ依レハ農具ノ外戦車、「タチャンカ」車輛其ノ他ノ軍需品ヲ製作シ居ル趣ナリ
又客年春「ハバロフスク」精油工場建設用ノ「ベアリング」、滑車其ノ他ノ器械ヲ製作シタル旨新聞紙上ニ發表セラレタリ

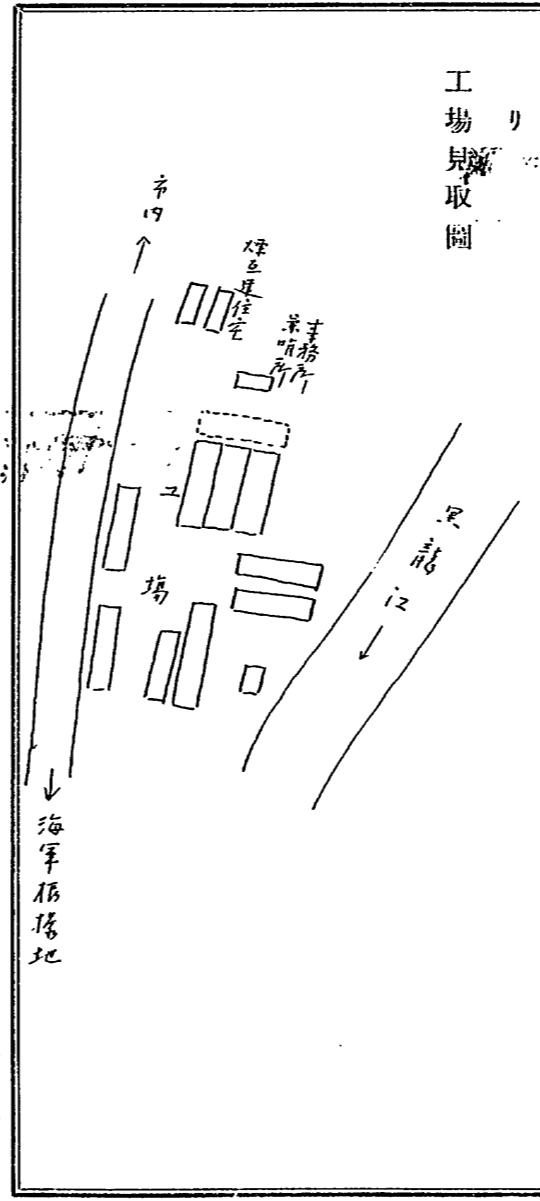
在ハバロフスク日本總領事館

一九三五年年度ノ作業成績ハ計畫ヲ遂行セス本年度八個月間ノ計畫遂行率ハ九八四%ナリト謂フ

本工場現監督技師ハ造船技師ニシテ「キーロフ」造船工場、「コムソモリスク」造船所及浦潮「ウオロシーロフ」工場ニ兼働ス

労働者、本年「メーデー」祭ニ参加シタル労働者數ハ約五百人ナリ

工場見取圖



在ハバロフスク日本總領事館

「ゴリキー」航空機工場

一九三三年建設着手、一九三五年操業開始

工場ハ完成ニ近キタルモ尙補助工場（製材工場等）及發電所建設停滯シ居ル外未タ水道、道路、住宅等ノ設備極メテ不完全ナリ又工場附屬ノ七年制小學校アリ

位置、「ハ」市ノ東方約十瓦「キロ」

操業狀況、航空機ノ組立修繕及製作ヲ行フ如シ一九三五年年度ノ計畫遂行振リハ極メテ不良又本年度八個月間ノ製作計畫ハ量ニ付テハ畧遂行サレタルモ工場指導者カ質ヲ輕視シタル爲製品ニシテ遣直シノ爲工場ニ返送セラレタルモノ多數ニ上ルト謂ハル

客年十二月「コムソモリスク」航空機工場（第一二六工場）ノ「スタハーノフ」一行本工場ヲ視察シ製作技術ニ付助言ヲ與ヘ及兩工場間ノ統制ヲ約シタル趣ナリ本工場従業員モ本年始メ第一二六工場ヲ訪問シタルカ如シ

兩工場ノ監督技師ハ同一人ナリ

在ハバロフスク日本總領事館

労働者、本年「メーデー」ニ参加シタル労働者ハ約四百人ナリ最近ノ新聞所報ニ依レハ労働者中青年六百人他ニ青年共產黨員約百名ヲ有スト

現在「スタハーノフ」ノ數ハ約百五十人ニ過キス「スタハーノフ」運動進展セスト謂ハル

尙本年初四千立方米ノ住宅街、十戸ノ新住宅、一晝夜六百名收容ノ共同浴場、五十床ノ附屬病院ヲ建設セリ

「カガノヴィチ」自動車修繕工場

一九三二年起工、一九三五年主要工場畧完成シタルモ尙鑄型工場及若干ノ補助工場未完成ナリ、工場建物三棟、發電所一棟、練瓦造二階建家屋三棟（事務所其ノ他）及附近ニ多數ノ住宅アリ

位置、「ハ」市東北端（「ハ」市停車場附近）

設備能力、工場建設計畫ニ依レハ

イ、乗用及貨物自動車ヲ併セ一日ノ根本的修繕台數十台、一個年三十六台

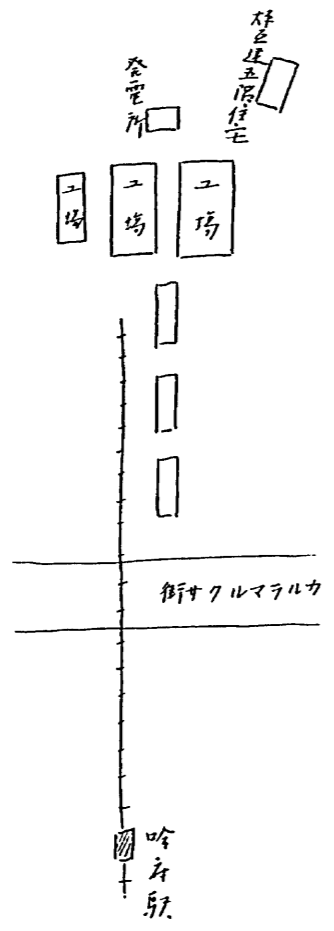
在ハバロフスク日本總領事館

口、自動車部分品（二千五百種）製作高、年額二百五十萬留作業状態、作業成績ハ諸工場中最良ニシテ計畫遂行率一九三五年度一三二%、一九三六年八個月間同シク一〇%、

軍用車以外ニモ一般ニ *amo-3* 及「フォード」型車ノ修理、部分品ノ製作ヲ爲ス外注文ニ應シ左ノ作業ヲ行フ

機械製作、鍛冶鐵工、鍛接、蓄電池製作、クローム、ニツケル亞鉛、銅及カドニウム鍍金、金屬酸化皮膜施工、器具製作

労働者、本年「メーデー」祭ニ参加シタル數約五百人ナリ



在ハバロフスク日本總領事館

四 「オルヂヨニキツゼ」精油工場

一九三一年起工、一九三五年第一期建設工事完了
位置、「ハ」市北端

設備能力、第一期建設完了ニ依リ原油二十九萬噸ノ處理能力ヲ有
スト耐スルモ工事終了後故障續出シ實際ノ能力ハ遙カニ之ニ及ハ
サルカ如シ

一萬噸「タンク」十一、五千噸「タンク」四、製品用五千噸「タ
ンク」二、二千噸「タンク」一、發電所（出力一千「キロ」）
アリ

操業狀況、製品ハ「ベンチン」、燈油、機械油、「アスファルト」
及「コークス」アリ本年一月ヨリ「クレツキング」工場ハ運轉
休止ノ上修理中ニシテ從フテ「ベンチン」製産ハ現在モ停止中
ナリ

一九三五年度「オハ」産油ノ本工場ヘノ輸送高ハ十二萬噸ノ計
畫ナリシモ實際ノ輸送量ハ約八萬噸ナリト謂ハル尙本年度ノ計

在ハバロフスク日本總領事館

畫輸送量ハ十六萬噸ナリ

勞働者、本年「メーデー」祭ニ參加セル勞働者ハ約五百人ナリ

五 黒龍江船舶修理工場（「アルト、ザトン」）

位置、「ウスリー」河及黒龍江合流地點ニアリ

操業狀況、主トシテ黒龍江航行用ノ客船及貨物船ノ修理作業ノ外

外人技師指導ノ下ニ土壤浚渫機等ノ製作ヲ爲ス

一九三五―三六年ノ作業成績擧ラサル故ヲ以テ本年五月工場首

腦部ハ「ソヴィエト」統制委員會極東全權ノ決定ヲ以テ警告處

罰セラレタリ

勞働者、従業員約六百名

六 「キーロフ」造船工場

一九三五年工場設備ヲ改造セリ

位置、「ハ」市ヨリ黒龍江下流約十「キロ」ノ地點ニ在ル黒龍江

艦隊「オンボフスキー」碇泊港ニ在リ

操業狀況 艦船ノ建造及修理ヲ爲ス、本年上四半期計畫遂行率ハ

在ハバロフスク日本總領事館

七八%ナリト謂フ
 労働者、本年「メーデー」祭ニ参加セル數約三百人
 「ハバロフスク」製粉綜合工場コムビナート

一九三三年起工、一九三五年工事終了後大修理ヲ行ヒ一九三六年
 五月完成操業
 位置、「ハ」市ノ南方市外約七「キロ」ノ地點ニ在リ
 設備能力

製粉工場 一晝夜 二百 厨
 碾割工場 同 五十 厨

附屬設備トシテ發電所（出力二十「キロ」）、小麦乾燥設備、
 貯藏「タンク」、倉庫、鐵道支線八千（第二「ハバロフスク」
 及工場間）、水道（第一期工事完成）アリ
 將來「コムビナート」附屬ノ麵麩工場（能力一晝夜百四十厨）
 及「マカロニ」工場（能力一晝夜百厨）建設ノ豫定ナリ
 「ハバロフスク」發電所

在ハバロフスク日本總領事館

一九三二年起工、一九三四年四月ヨリ操業
 位置、「ハ」市西北端、黒龍江右岸
 設備能力、現在出力六十「キロ」（發電機二台）
 更ニ設備ヲ擴張六十「キロ」ヲ増加スル豫定ナリ
 以上ノ外「ハバロフスク」市内外ニ比較的規模大ナラサル工場ニ非
 軍用飛行場附屬飛行機修理工場、練瓦工場、製材工場、製粉所、麥
 酒及火酒工場、麵麩工場、皮革工場、家具工場、裁縫工場等有ル
 外目下建設中ノモノニ化學藥劑工場、「ミヤソ、コンビナート」等ア
 リ

右報告ス

在蘇聯邦臨時代理大使
 在浦潮總領事
 本信寫送付先
 在武市領事代理

在ハバロフスク日本總領事館

ハバロフスクE4.570.71

調査部第三課

歐亞局

公第一六六號

昭和十一年十月二十八日

在オデッサ

領事 平田

在オデッサ
領事 平田
印

外務大臣 有田 八郎 殿

蘇聯工業成績ニ關スル件

本年九ヶ月間蘇聯邦工業成績ニ關シ左記ノ通り報告申進ス

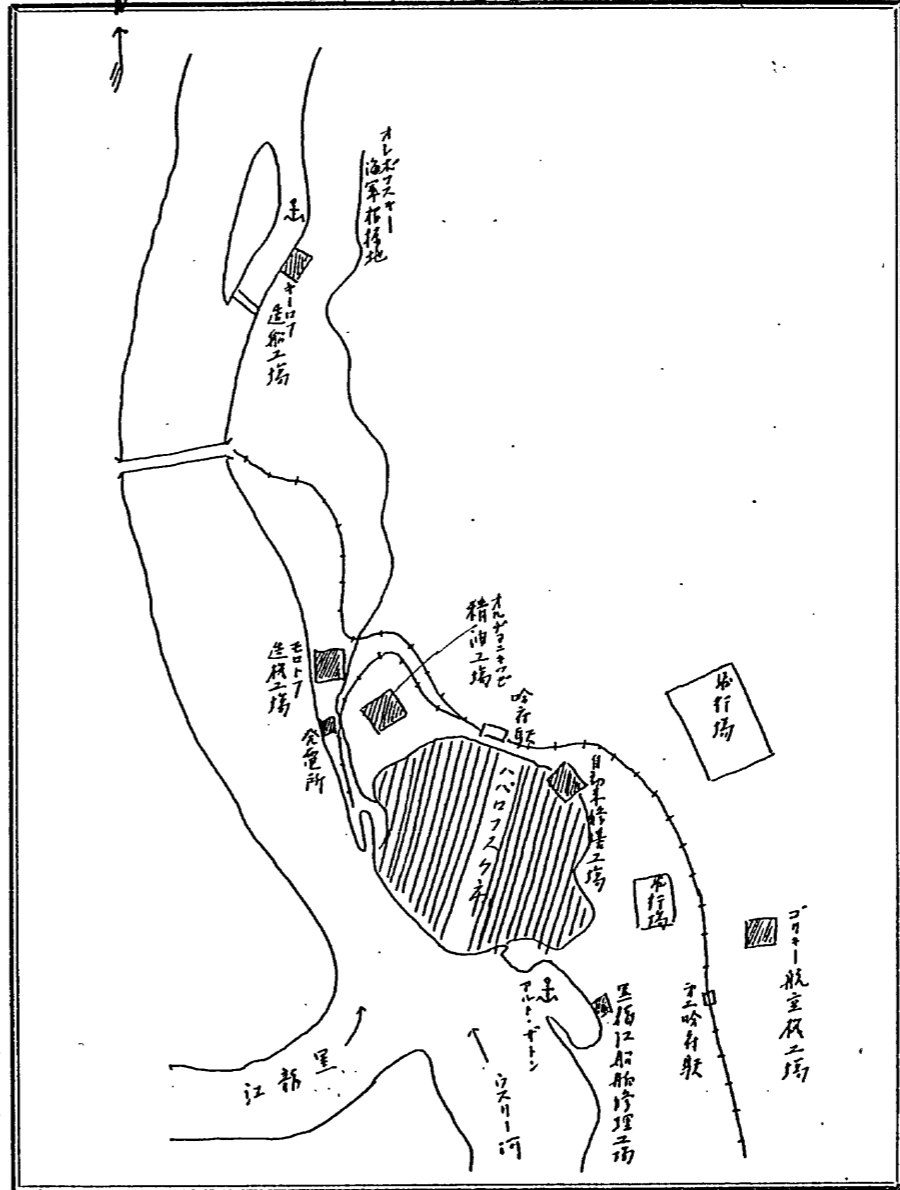
本信寫送付先 在蘇大使

在オデッサ日本領事館

昭和十一年十月廿日 接受

手書きの署名

ハバロフスク市近郊工業地位要圖



在ハバロフスク日本總領事館

記

本年九ヶ月間蘇聯邦工業總生産額ハ蘇聯「ゴスプラン」ノ公表ニ依ルニ四百九十五億三千二百萬留ニシテ年「プラン」ノ七四四%ナリ今ソノ部門別ヲ見ルニ左ノ如シ

工業總生産額	495,320	百萬留	對前年同期増率	337%
（A類・生産手段	302,437			355%
（B類・消耗品	192,883			309%
内詳				
聯邦工業	392,879			330%
内				
重工業部	238,424			351%
林業部	21,623			179%
輕工業部	55,444			367%
食品工業部	64,141			347%

在オデッサ日本領事館

内閣買付委員會	120,444			48%
寫眞映畫工業	11,433			280%
共和國地方工業	638,908			377%
工業コオペラーチヤ	386,033			445%

而シテ本年九ヶ月間ニ於ケル生産狀況ヲ見ルニ全工業生産額ハ第一期一六三四七百萬留、第二期一六五〇一、三百萬留、第三期一六六八三〇百萬留ト期ヲ追ヒ増加シ九ヶ月間ニテ前年同期ニ比シ三三七%増トナレリ然レトモ之ヲ各部門別ニ見ルトキハ重工業部所管ニ於テハ第二期ヲ最大トシ第三期ハ之ヨリ劣リ林業部ハ第一期成績比較的ニ好ナリシモノノ後減少シ第二期ハ第一期ニ比シ約三割七分ヲ減シ更ニ第三期ハ前期ニ比シ幾分増加セルモ第一期ニ比シ尙三割ノ減少ナリ輕工業部ハ每期減少ヲ續ケ前期ニ比シ每期一億留餘ノ減産ナリ而シテ順調ニ増産ヲ維持セルハ食品工業及地方工業ノミナリトス斯クノ如ク「スタハーフ」生産年ト稱スル本年モ期ノ進ムニ連レ缺陷ヲ曝露シ食品工業及地方工業ノ外全般的ニ沈退的傾向ヲ示シ又

在オデッサ日本領事館

他方生産品質ノ下降殊ニ輕工業及地方工業ニ於ケル夫レハ本年工業ノ二大缺陷ナリトセラレ
 次ニ重工業諸部門ノ生産狀況ヲ見ルニ左ノ如シ(一九ヶ月間)

トラクター	八九五	對前年同期増率	六%
コークス	七五八		一九八
銅	七四五		三二〇
電力	七四四		二七五
炭鐵	七四三		三六一
純鐵	七四一		一六七
鐵鑛	七三、四		四九
石油	七二、三		一〇六
機台	七〇、五		二七一
石炭	六九、二		一九九
黒銅	六四、七		二八二

在オデッサ日本領事館

當局ノ發表ニ依レハ三期間ニ於ケル對年「一」プラン「」生産割合ハ平均七四九%ナル處前記ノ如ク右豫定ニ達セルハ僅カニ「一」トラクター」及「一」コークス」ノ二部門ノミニシテソノ他ハ孰レモ豫定ニ達セス重工業ノ基礎トモ云フヘキ製鐵、石油、石炭ニ付テ見ルニ製鐵ハ平均シテ先ツ々々ト云フヘキ成績ナルカ石油、石炭ノ不振ハ例年ノコト乍ラ最モ注目ニ復ス

貨物自動車	六〇〇	九四二
コムハイン	六二二	五七六
鐵鑛	九三三	九六七
銅	八九六	九七九
炭鐵	八二八	九二五
石炭	八五六	八八二
石油	九〇五	八六二

在オデッサ日本領事館

蘇聯諸紙ハ工業諸部門ニ於ケル「スターハーフ」運動ニ依ル労働能率ノ増進、設備ノ合理的の使用等ニ關シ部分的ニ誇張報道シオルモ右生産狀況ノ現實ハ明ニ「スターハーフ」運動ノ不調ヲ反映スルモノト云フ外ナシ

在オデッサ日本領事館

夕子ニ呈す

歐亞局

公機密第六八五號

昭和十一年十二月二日

第一課

昭和十一年七月九日 接受
別紙添付

在齊々哈爾

總領事 田中莊太郎



在

外務大臣 有田 八郎 殿

31 在滿大使宛 十二月二日 附機密第九四六號

左記件名公信寫送付ス

件名 蘇聯ノ工業總生産高ニ關スル件



機密第九四六號

昭和十一年十二月二日

在滿洲國

特命全權大使 植田謙吉 殿

蘇聯ノ工業總生産高ニ關スル件
(本館署長報告)

本件ニ關シ十一月十四日附露字紙ブラウダニ掲載セラレタル本年一月ヨリ十月ニ至ル蘇聯ノ工業總生産高別表ノ通御參考迄報告申進ス
本信寫送付先、外務大臣、警務部長

在齊々哈爾
總領事 田中莊太郎

別紙添付

在齊々哈爾日本帝國領事館

工業部門	一九三六年十月ニ於ケル生産高單位(百萬ルーブル)		一九三五年十月ニ於ケル生産高單位(百萬ルーブル)		一九三六年自一月至十月ニ於ケル生産高單位(百萬ルーブル)		一九三五年自一月至十月ニ於ケル生産高單位(百萬ルーブル)	
	一九三六年十月	一九三五年十月	一九三六年十月	一九三五年十月	一九三六年自一月至十月	一九三五年自一月至十月	一九三六年自一月至十月	一九三五年自一月至十月
全同盟工業人民委員部	五三七九八	一一二六六	一一二七九	四四八三	四四八三	一一三三二	一一三三二	
重工業人民委員部	三〇五三三	一一〇八二	一一三〇七	二六九一	二六九一	一一三四七	一一三四七	
林業人民委員部	二一七八一	一〇〇六	一一二五二	三四七五	三四七五	一一六四	一一六四	
輕工業人民委員部	七六七三	一一四四	一一二九三	六三一四	六三一四	一一三五八	一一三五八	
食糧工業人民委員部	一一一三一	一一二六三	一一二〇九	七五八六	七五八六	一一三三三	一一三三三	
聯邦豫備工業委員部	二一三六	一一二六六	一一二四三	一四一六	一四一六	一一〇七三	一一〇七三	
聯邦技術(映畫寫真)委員部	一五七一	一一五七一	一一三七八	一三〇一	一三〇一	一一二八五	一一二八五	

在齊々哈爾日本帝國領事館

調査部
第三課長

手紙 EY (K0.31)

外亞局

普通公第一一號

昭和十二年一月九日

在武市

領事代理 下村 未 郎



外務大臣 有 田 八 郎 殿

「ピロビヂヤン」ニ履物工場設立ノ件

猶太人自治州「ピロビヂヤン」ニハ「ベニヤ」板工場、裁縫工場、
荷車工場、石灰工場等相次テ設立セラレ今ヤ「ピロビヂヤン」ハ極
東地方ニ於ケル輕工業ノ中心地タラントシツツアル趣ハ既報ノ通ナ
ル處舊臘二十四日附「ピロビヂヤンスカヤ」ズヴエズダ紙ノ報道
ニ依レハ蘇聯邦設計局ハ設立費二千萬留年産高二百七十萬足ノ履物
工場ヲ設立スル事ニ決定シ一九三七年ヨリ建設ニ着手スルコトナ

在ブラゴウエスチエンスク日本領事館

昭和三十二年一月十八日接受

レハ趣ナリ
右報告ス

本信寫送附先

- 在 蘇 大 使
- 在 滿 大 使
- 在 哈 府 總 領 事
- 在 浦 潮 總 領 事

在ブラゴウエスチエンスク日本領事館

歐亞局

第一〇〇〇

昭和三年貳月拾貳日接受 D

本第十四號

昭和十二年一月十六日

在オデッサ

領事 平田



外務大臣 有田 八郎 殿

一九三六年蘇聯重工業概績ニ關スル件

本件ニ關シ左記ノ通り報告申進ス

調査部記録

Handwritten notes and signatures at the top of the document.

在オデッサ日本領事館

記

△ 工業概績

重工業部(蘇)オオルジヨニキイゼーハ十二月十四日(蘇)人民委員部ノ一九三六年(蘇)人民委員部ノ遂行ヲ報告セルヲ初メトシ食品工業部ハ十二月十四日(蘇)人民委員部ノ期限前遂行ニ就キ報告スル處アリタリ

蘇聯邦工業關係諸人民委員部中林業部(一九三三年)ノ九五%ヲ除キ孰レモ年末迄ニハ豫定ヲ超過遂行シ工業總生産額ハ前年ノ六百六十八億留ニ對シ八百五十八億留即チ百九十億留、二八四%ノ増産トナレリ工業生産額ハ近年益々増産ノ傾向ヲ示シツ、アル處今各年ノソノ前年ニ對スル増額ヲ見ルニ一九三三年三十億留、一九三四年八十二億留、一九三五年百十三億留、而シテ一九三六年ハ前記ノ如ク百九十億留ノ驚異的増産ニシテ内百十四億留ハA類工業(生産手段ノ増産ナリ)

在オデッサ日本領事館

而シテ右本年ノ増額中ソノ三分ノ二ハ勞働過程ノ改善ニ依ル生産能率ノ増加、残り三分ノ一ハ企業及労働者ノ増加及其他ニ依ルモノトセラレ、カ茲ニ生産能率及生産額増加ノ關係ヲ示セハ左ノ如シ

	生産能率	生産額
重工業部	(+) 二六%	(+) 三三%
輕工業部	(+) 二一%	(+) 三三%
食品工業部	(+) 一五%	(+) 二七%
林業部	(+) 一一・一五%	(+) 一四%

△ 重工業

重工業部所管工業生産額ハ前記ノ如ク前年ニ比シ三三%増加シ全體トシテ八年十ヶ月間トテ超過セルカ之ヲ主要部門ニ付見ルニ左ノ如シ

發電量 對年ブラン% 一〇三・二

在オデッサ日本領事館

鉄鋼	九九三
鋼	一〇三・一
展鐵	一〇三・二
石炭	九四一・九五
石油	九七三
有色金屬	九八一・九九
内 炭銅	九一六
機械製造	一〇六〇
内	
トラクター	一一〇二
ボイル・ペアリング	九九六
機關車(夕型換算)	八二五
貨物車(二軸換算)	八四三
機台類	九八八

右ノ如ク重工業各部門ノ成績ヲ一ヤラシメテ遂行ノ點ヨリ觀ルニ製鐵ハ大體昨年來ノ好調ヲ維持シ居リ有色金屬ハ前年ノ十ヶ月間トテ完行

在オデッサ日本領事館

ニ比シ本年ハ僅少ノ不足ナルカ實生産ハ大イニ増加トナリ居ルヲ以テ之亦大體好調ト云ヒ得ヘシ燃料工業中泥炭ヲ除ク石炭、石油ハ依然トシテ最モ不良ナリ機械製造ハ全體トシテ六%ノ超過遂行ヲ示シ大體各部門トモ^相富ノ成績ヲ擧ケ居ル中ニ鐵道關係機械類ノ不振ハ特ニ顯著ナルモノアリ

△ 重工業成績ノ特異點

一九三六年重工業成績ヲ通觀シ特ニ感スルハ(1)生産^{進度}一^十トボ^急騰(2)設備利用方面ニ現ハレタル勞働質ノ向上ナリトス

(1) 生産^{進度}一^十トボ^急騰

最近各年重工業生産額ノ前年ニ對スル増率ハ一九三三年一〇・八%、一九三四年二七・七%、一九三五年二七%ニ對シ一九三六年十一月ニテ前年同期ニ比シ三四・一%ナリ各部門中機械製造最モ高率ニシテ四一%、次テ化學工業ノ三三・三四%ナリ而シテ製鐵業ニ於テハ銑鐵ノ一五・三%最モ低ク鋼ハ三〇・四%、展鐵ハ三三・一%ナリ(石炭ハ

在オデッサ日本領事館

一五・七%、石油ハ九・一%ニシテ最低ノ部類ニ屬ス)

(2) 勞働質ノ向上

右増産ハ工業概績ニ於テ既述セル如ク一部新企業ノ充實及勞働者ノ増加等ニ依ルモノノ大部分ハ勞働ノ質的改善特ニ設備利用ノ改善ニ歸因スルモノナリ例ヘハ此方面ニ於テ成績最モ良好ナル製鐵業ニ於テ觀ルニ焙鐵爐ノ利用係數ハ一九三五年ノ二二ニ對シ一九三六年ハ三〇・八トナリ又一「マルテン」爐爐底一平方米當一晝夜生産高ハ前年ノ銅三・三噸ニ對シ本年ハ四・四噸ニ上レリ更ニ油井鑿穿ニ於テモ前年ノ一機台月二三・八米ニ對シ五四・九米ニ増加セリ斯クテ勞働生産能率ハ全工業ヲ通シ前年ニ比シ一九三三年一・四%、一九三四年一・五八%、一九三五年一九・四%ニ比シ本年ハ二六%ノ昂上ヲ示セリ由之觀之「スタハ」ノ「フ」運動ハ從來鬼角ノ批評アルモ一九三六年中或ル程度ノ成果ヲ擧ケタルコトハ之ヲ認メサルヘカラス

以上

在オデッサ日本領事館

右国に於てん丁上多れに

歌亞局

昭和三年三月廿六日授受

公普通第 三七 號

別紙添附

昭和十二年二月一日

在「ソヴェエト」聯邦
特命全權大使 重光



外務大臣 有田 八郎 殿

一九三六年ニ於ケル「ソ」聯邦工業成績ニ關スル件
本年一月二十二日ノ「イズヴェスチャ」紙上ニ「ソ」聯邦國家計畫
委員會中央國民經濟統計局發表ノ別紙一九三六年度「ソ」聯邦工業
成績掲載セラレタルニ付右茲ニ報告申進ス



分類 E 4. 5. 0. 3 /

内 全「ソ」手工業組合「ソ」	八九八二	一四手八	「〇〇七四	一四手八	「〇一平六	一五手三	「一五甲一	一四手八	四〇七手三
(イ) 全「ソ」林業組合同盟	二二〇二	一二甲二	一七手三	一二七七	一六甲一	一三六	一九手九	一六	七五〇五
(ロ) 全「ソ」障害者手工業組合「ソ」	一一甲四	一三手六	一三手八	一四九五	一三八〇	一五甲	一五七九	一三手二	五四手一
以上總計	一六四 手 〇	一三手一	一六六〇 手 八	一三六三	一六八〇 手 六	一三手二	二〇二四〇 手 三	一二甲八	七〇九手七
内 (イ) 生産手段ノ生産	一〇一三甲二	一三手七	一〇一五手五	一三七五	一〇一四手三	一三手二	一六七三手六	一二七	四六一七手六
(ロ) 消費材ノ生産	六三〇 手 八	一二手八	六四四 手 三	一三四五	六六六 手 三	一三手三	八五〇 手 七	一二 手 九	二七九二手一
内 (イ) 生産手段ノ生産	一〇一三甲二	一三手七	一〇一五手五	一三七五	一〇一四手三	一三手二	一六七三手六	一二七	四六一七手六
(ロ) 消費材ノ生産	六三〇 手 八	一二手八	六四四 手 三	一三四五	六六六 手 三	一三手三	八五〇 手 七	一二 手 九	二七九二手一
以上總計	一六四 手 〇	一三手一	一六六〇 手 八	一三六三	一六八〇 手 六	一三手二	二〇二四〇 手 三	一二甲八	七〇九手七
(イ) 全「ソ」林業組合同盟	二二〇二	一二甲二	一七手三	一二七七	一六甲一	一三六	一九手九	一六	七五〇五
(ロ) 全「ソ」障害者手工業組合「ソ」	一一甲四	一三手六	一三手八	一四九五	一三八〇	一五甲	一五七九	一三手二	五四手一
以上總計	一六四 手 〇	一三手一	一六六〇 手 八	一三六三	一六八〇 手 六	一三手二	二〇二四〇 手 三	一二甲八	七〇九手七
内 (イ) 生産手段ノ生産	一〇一三甲二	一三手七	一〇一五手五	一三七五	一〇一四手三	一三手二	一六七三手六	一二七	四六一七手六
(ロ) 消費材ノ生産	六三〇 手 八	一二手八	六四四 手 三	一三四五	六六六 手 三	一三手三	八五〇 手 七	一二 手 九	二七九二手一

系別別

情報部 後

証書第...
E4.10.31

歐亞局
普通第五一號

昭和拾貳年貳月六日

在ラトヴィア

特命全權公使 佐久間 信

外務大臣 林銑十郎 殿



蘇聯工業ノカタストロフィック的状态ニ付テノオスト、エクスプレス

通信ノ件(第三次及夫レ以上ノ「トロツキー」派裁判行ハルカ)

本件ニ関シ本月三日「ダズ科発」オスト、エクスプレス通信ハ在ラトヴィアニ報セリ
「ラウ」紙ハ今次「ダズ科発」於テ見世物裁判ニ関スル論況中ニ於テ蘇
聯注海ノ乱脈ヲ詳述シ之ヲ以テ「異端」行石ニ基クモノナラト云シ
予亦右良ノ死活ニ関スル大工業中不都合極ナル不秩序状態支配シ居ルモ
ノ多数アルコト、加ヘテ「トロツキー」派ノ「サボタージュ」ニ帰スハキモノナルコト

在ラトヴィア日本公使館

件多々工業...

昭和貳年貳月廿日



右乱脈サレ工業ノ重要部門ニ亘リ研認セラルコト(多数
ノ企業ヲ指名ス)特ニ最重要ナル「ハネツ」ク「スネツ」両炭田地方ニ
於ケル産炭ノ不充分ナルコト、化学工業ノ改善ヲ要スル労働者ノ決議ニ益
々其ノ数ヲ増加シ「アルコト」交通業モ其ノ機能ヲ發揮セサルコト等
ヲ指摘セラル大ニ依リ「蘇聯」ノ工業化ハ蘇聯政府カ常ニ繰返シ
発表シ「ソワアルカ」如何満足ニ進展シ居ラサルコト明カナルト共ニ「ハ
ネツ」紙其ノ他「蘇聯」主要新チノ所産「ルイコ」「アハリ」「ウケリヤ
」等ニ対スル新ナル裁判ノ準備セラレ「ソワアル」以外ニ多数工業ノ
幹部連(其中一部ハ指名セハバカシ居リ)ニ対スル裁判ノ裁判
ヲ豫想スヘキヲ暗示スルモノナリ而シテ之等見世物裁判ニ於テ「ハト
ロ」依リ「蘇聯」工業ノ重大ナル乱脈サニ対シ独リ責任アルモノ
ナラズ「ソワアル」カ「證明セラル」コト勿論ナラハシ云々

在ラトヴィア日本公使館

本信送附先 参謀本部、軍令部

(昭和十二年一月十六日附在オデッサ領事館未信公第一四部寫付)

公
信
案
外
務
省

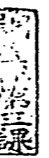
昭和十二年四月廿六日受

機密八五第四六號

昭和十二年四月十一日

在ハバロフスク

總領事 島田正靖



外務大臣 佐藤 尚武 殿

調書「極東蘇領ニ於ケル重工業ノ現状」送付ノ件
當館清水書記生作製首題調書茲ニ送付ス
寫送付先 在ソ聯邦大使

在ハバロフスク日本總領事館

E-2041

昭和十二年四月十一日

機密

地質資料

極東蘇領ニ於ケル重工業ノ現狀

在ハバロフスク日本総領事館

清水書記生

在ハバロフスク日本總領事館

極東蘇領ニ於ケル重工業ノ現狀

目次

第一章	概説
第二章	電氣工業
第三章	冶金工業
第四章	機械製造工業
第五章	造船工業
第六章	自動車工業
第七章	航空器材工業
第八章	兵器製造工業
第九章	車輛製造工業
第十章	化學工業
第十一章	結言

在ハバロフスク日本總領事館

極東蘇領ニ於ケル重工業ノ現狀

第一章 概説

一九三四年春當時ノ極東地方共產黨書記長「ラヴレンチエフ」ハ地方黨大會ニ於テ述ヘテ曰ク「黨大會カ吾人ニ課シタル任務三アリ第一ハ極東地方ヲ大工業地方化スルコト、第二ハ之ニ強大ナル農業的基礎ヲ與フルコト、第三ハ之ヲ堅固ナル要塞化スルコトアル」ト而シテ彼ハ更ニ右三課題遂行ノ爲ニハ先ツ根本問題トシテ燃料事業ヲ解決確立シ更ニ之ニ基イテ造船造船等ノ材料資源ノ開發並運輸事業ノ改善ニ向ツテ邁進セネハナラヌト説イテ居ル又現極東地方執行委員會議長「クルトフ」ハ本年三月六日發表シタ一九三七年度國民經濟計畫ノ中ニ於テ「本年度極東經營ノ重要點ハ第二次五箇年計畫ノ最終年度トシテ特ニ地方防衛ノ強化ト工業ノ飛躍トニ指向セラレネハナラヌ」ト切言シテ居ル

極東地方第二次五箇年計畫ノ根本方針ハ右講演ノ趣旨ニ明ナル如ク工業ノ振興ト防衛ノ強化トニ指向セラレテ居ルモノデアツテ此ノ

在ハバロフスク日本總領事館

兩者ハ實ニ極東建設ノ二大眼目ト稱スヘク而シテ又其ノ性質並之カ連管上相互ニ唇齒不離ノ關係ニアルコトハ言ヲ待タナイ

本篇調査ハ此ノ重大ナル重工業部門ノ現況ニ關シ觀察ヲ加ヘルノ目的トスルカ單ニ重工業ト稱スルモ其ノ範圍ハ頗ル廣汎テアリ且又其ノ事業ノ大部分ハ所謂軍需工業ノ領域ニ懸屬スル從來ハ地方ノアラユル重工業ハ政府ノ決定スル大綱ニ準據シ重工業人民委員部極東地方全權ノ一手ニ依テ運営セラレテ居リ而シテ密接ナル需給關係ニテル特別極東軍及太平洋艦隊ハ之ト全ク對立的立場ニ立ツテ共ニ所屬人民委員ノ手ヲ經由シテ發註並受註ヲ律シテ來タノテアル 然ルニ昨一九三六年未ニハ國防人民委員部ノ創設ヲ見タノテアルカ其ノ結果トシテ當地方ニモ當然同部全權部ノ設置並業務ノ移管ヲ來スモノト思ハレルカ此點ニ關シテハ未タ何等ノ情報ニモ接シテ居ナイ從テ本調査ニ於テハ從來カラノ關係傳統的關係モアリ又兩者ノ確然タル區別ノ困難ナル等ノ理由カラ特ニ從前ノ廣イ範圍テノ重工業即チ電化、冶金、造船、造船等ノ本然的重工業カラ造兵、航空機製作、造船、自動車製作等ノ軍事

在ハバロフスク日本總領事館

工業ニ至ル一切ヲ包括シテ記述スルコトニスル但シ本部門ニ關シテハ蘇側官民共ニ極端ナル軍機保護ニ努メ工場ノ名稱ノ如キモ單ニ何號工場ト呼ビ或ハ表看板ヲ農具工場ト稱シテ實ハ兵器ノ製作ヲ行ヒ又ハ常時至嚴ナル警戒線ヲ張り廻ラシテ常人ノ近接ヲ禁遏スルナト所有手段ヲ用ヒテ機密ノ漏洩ヲ防止シテ居ルノテ勢ヒ本篇記述ノ内容モ茫漠トシテ摺ミ所ノ無イモノニ墮シ單ニ工場名タケヲ括クテ内容不明ノモノモ多數ニ上ツテ居ルシ又是等以外ニ未發見ノ企業モ少カラサルモノト思ハレル遺憾カ殘ルテアルカ之ハ止ムヲ得サルトコロデアル

近年ニ於ケル重工業ノ發展振ハ之ヲ數字のニ示スコトハ至難デアル今之ヲ投資額カラ見レハ一九三三年ニ始ツタ第二次五箇年計畫當初ノ案ニ依レハ重工業ニ對スル基本投資豫定ハ十億三千二百萬留餘デアツテ是ハ極東總投資豫定ノ二五%餘 又輕工業、木材工業、食品工業ヲ含ンタ工業全体トシテノ投資額ノ約六三%ヲ占メルモノモアル然ルニ其ノ後石計畫實施ニ方テハ極東情勢ノ變化ニ伴ヒ實際投

在ハバロフスク日本總領事館

資額八年々著ク増加シタ即チ地方全体建設ヘノ實際投資額ハ一九三三年ニハ四五〇百萬留 三四年一、四四七 三五年一、四〇〇 三六年二、四一〇(豫定ハ二、九〇〇) 本三七年豫定二、六〇〇トイフ風ニ累進シテ合計約八十三億留ニ増大シ當初ノ計畫約四十億留ノ二、一倍ニ膨脹シテ居ル

又工業全般ニ對スル投資モ之ニ伴ヒ約三十四億留即チ計畫ノ二、一倍ニ上ル形勢トナツタ從テ重工業部門ニ對スル投資額モ當初ノ十倍三千二百萬留餘カラ少クモ二十一億留内外ニ膨脹シテ居ルモノト思ハレル

借テ以上記述ノ事項ヲ念頭ニ留メツツ個々ノ事業部門ニ立チ入ツテ觀察ヲ進メルコトニスルカ企業ノ業態等ヲ記述スルニ方リ同一工場テ數種部門ニ跨リ作業シテ居ルモノ例ヘハ造船工場テアリナカラ機械ヤ兵器ヲ造ツタリシテ居ルモノカ多クアルノテ此等ハ各章毎ニ反覆スルノ繁ヲ避ケ最モ關係深キ章内ニ於テ記述スルコトニシタ又重工業人民委員所管事業ノ中ニハ石炭、石油、採鐵、建築材料工業

在ハバロフスク日本總領事館

等ヲモ含ムノテアルカ此等ニ歸シテハ別ニ調査「極東蘇俄ニ於ケル工業ノ現狀」中ニ述ヘタ所テアルカラ本篇テハ之等ニ触レナイ

在ハバロフスク日本總領事館

第二章

電氣事業

蘇聯邦ノ電氣事業ハ一般ニ遅レテ居リ殊ニ極東地方ニ於テ甚シイ發電事業ノ重要視セラレルヤウニナツタノハ五ヶ年計畫殊ニ其ノ第二次テ滿洲事變以後テアル

當地方發電事業ノ爲ニハ因ヨリ水力ノ利用ヲ有利トスルカ未タ水利關係ノ研究十分ナラス且石炭、「トルフ」(泥炭)等ノ燃料カ比較的豊富ナ爲ニ現在迄ノ發電所ハ悉ク火力發電ニ依ツテ居ル
第二次五ヶ年計畫當初ノ案ニ依レハ一九三七年末迄ニ在來ノ舊發電所ノ外ニ地方各地ニ新設又ハ大改装ヲ行フ發電所ハ大小二十二箇テ其ノ出力ハ合計四十八万一千「キロワット」ニ達スルモノテアツタ然シ今日迄ノ實績テハ計畫ヲ離ルルコト尙ホ遠イモノカアル
近年ニ於ケル地方電氣事業ノ成績ヲ數字テ示スト次ノ如クテアル

出力(「キロワット」)

發電量(「キロワット」時)

一九三〇年
一九三二年

一三、九〇〇
一八、〇〇〇

三五、二〇〇、〇〇〇

在ハバロフスク日本總領事館

スバスク發電所	烏蘇里州	九、〇〇〇	石炭
ウスリー發電所	ハ府州	三、〇〇〇	材屑
イマン發電所	ハ府市	三、〇〇〇	石炭
哈府中央發電所	ハ府市	六、〇〇〇	石炭
コムソモリスク發電所	哈府州	六、〇〇〇	石炭
尼港發電所	下黒龍州	六、〇〇〇	薪材
亞港發電所	サハリン	六、〇〇〇	石炭
オハ發電所	カムチャツカ	?	石油
ベトロパウロフスク發電所	カムチャツカ	?	「下ル」
ボリシエレツツク發電所	下黒龍州	?	?
マガダン發電所	下黒龍州	?	?
ナガエゾオ發電所	?	?	?
スタン、ウテイヌイ發電所	?	?	?
ビロビツヂヤン發電所	猶太人自治州	六、〇〇〇	褐炭
ボヤルコフ發電所	黒龍州	?	?

在ハバロフスク日本總領事館

浦潮中央發電所	浦潮市	一三、三〇〇	石炭
蘇城發電所	沿海州	三、〇〇〇	石炭
アルチョム發電所	一〇〇、〇〇〇	?	?
ウオロシロフ市發電所	烏蘇里州	?	?
ウオロシロフ市製脂工場發電所	烏蘇里州	?	?
グロデオ發電所	?	二、五〇〇	?
チエルニゴフカ發電所	?	?	?

在ハバロフスク日本總領事館

一九三三年 二八、四〇〇 七一、七〇〇、〇〇〇
一九三四年 五四、〇〇〇 ?
一九三五年 一一〇、〇〇〇 八二、〇〇〇、〇〇〇
一九三六年 一三九、〇〇〇 豫定九九、三〇〇、〇〇〇
左ニ現在ニ於ケル地方所在ノ比較的大ナル發電所ノ名稱及能力ヲ表
記スル

アルハラ乳酪農場発電所	黒龍州	?	?
ボチカレオ発電所		六、〇〇〇	褐炭
武市発電所		六、〇〇〇	
スワボードヌイ発電所		六、〇〇〇	
ゼーヤ発電所	ゼーヤ州	七、七〇〇	石炭
スコウオロヂノ発電所		六、〇〇〇	

右ノ内特ニ著名ナル発電所ニ就テ概説スレハ

「アルチヨム」発電所
 一九三四年起工、本三七年三月竣工、出力十萬「キロワット」、設備各二万五千「キロワット」「タービン」発電機四基、傳導表面積千五百平方米ノ汽罐二箇、同二千平方米ノモノ三箇、原動ハ「アルチヨム」炭坑産粉炭、消費費料量一晝夜二十五噸、水ハ「マイヘ」河ヨリ誘導スル

建設費一億七千五百萬留、電力ハ浦朝、「アルチヨムスキー」、在ハバロフスク日本總領事館

「スーチヤンスキー」及「ウオロシーロフスキー」ノ各區ニ照明及動力用トシテ供給セラル

「ウオロシーロフ」市製脂工場発電所
 一九三四年十月竣工、製脂工場企業ニ所屬スルカ市及鐵道ニモ電力ヲ供給シテ居ル

ハ府中央発電所
 一九三二年起工、三四年四月竣工、三千「キロワット」火力發電機二基、近年市街及所在工業ノ急速ナル膨脹ニ應スル爲更ニ第二次工事ニヨリ出力六千「キロワット」ノ増加カ計畫セラレテ居ル

「コムソモリスク」発電所
 同地「ダリブロム」、ストロイヤ企業ノ所屬テアルカ市及所在各工場ニ供給シテ居ル 設備ハ前述哈府中央発電所ト同型テアル

「ピロピツヂヤン」発電所
 目下第一次建設工事實施中テ本三七年未ニ完成ノ見込、豫定出力ハ七千五百「キロワット」テアル 更ニ第二次建設ヲ行フ筈

在ハバロフスク日本總領事館

以上ノ如ク述ヘ來レハ發電所ハ地方各地方面ニ分布シ電化ハ相當ニ普及シテ居ル様ニ見エルカ事實ハ地方ノ急速ナル發展ニ追及シ得ス常ニ不足懸テ又燃料ノ採掘及運輸ノ滯滞ト相俟テ地方産業ノ圓滑ナル進行ヲ阻碍シテ居ル

尙ホ將來ニ屬スルモノトシテハ哈附郊外ニ「キーロフ」區發電所カ本三七年カラ着工セララル外「コムソモリスク」第二發電所（恐ラク水力）、「ブレイヤ」工業地方發電所（水力）及「スレドニカン」水力發電所（「コルイマ」地方）等ノ建設カ研究中デアル以上ノ所説ヲ綜合觀察スルト昨三六年末ニ於ケル極東地方ノ發電能力ハ約十四万「キロワット」弱デアル然シ本年八年初ニ「アルチヨム」ノ大發電所カ登場シタノテ一躍更ニ十萬「キロワット」ヲ増加スル計算ニナル然シ茲ニ疑問トスル點ハ同發電所ノ實體デアツテ在沿海州ニ於ケル所要電力ハ合計三萬「キロワット」内外ト見ラレテ居ルノニ何故此ノ如キ大發電所ヲ必要トスル歟カ恐ラク同發電所ハ今後全能力ヲ使用セス一部ノ操業ヲ行フモノト想像セラレルノテ

在ハバロフスク日本總領事館

アル

次ニ之ニ附隨シテ電氣機械及器具ノ製造ニ就テ一瞥スルニ此ノ方面ノ製造工業ハ甚々幼稚デアツテ複雑ナ品物ハ凡テ海外ヨリノ輸入乃至四方カラノ移送ニ仰イヌテ居ル 唯一的存在トモイフヘキモノハ油潮ニ於ケル電氣器具製造「トラスト」テ簡單ナ電氣發動機電氣器具類ヲ製造シテ居ル 此ノ外目下「コムソモリスク」市ニハ有力ナ蓄電器製造工場ノ建設カ進行中デアルト報セラレル

在ハバロフスク日本總領事館

第三章 冶金工業

本件ニ關シテハ既ニ拙稿「極東蘇領ニ於ケル工業ノ現狀」ナル調査ニ記述済ミテアルカラ本章ニ於テハ簡單ニ要點ノミヲ記述スルニ止メル

一 黑色冶金工業

鐵資源ハ比較的豊富テアツテ彼ノ埋藏量五億屯ト宣傳セララルル「ヒンガノ、ブレイヤ」領地帯ノ外ニ港附近ノ褐鐵礦區、「オリガ」附近ノ磁鐵礦區、蘇城河流域其他七十餘箇所ノ埋藏鐵區カ發見セラレテ居ルカ之カ精煉工場ハ目下建設中ニ屬シテ居ツテ實際ニ操業中ノモノハ皆無テアル

「ヒンガノ、ブレイヤ」建設計畫中ノ黑色冶金工場ハ小興安嶺地帯ニ建設セラレルモノテ統鐵年産六十萬噸ト豫定セラレテ居ルカ實際ノ建設工事ハ尙ホ机上計畫中ノモノノ如クテアル

「コムソモリスク」市黒龍江製鐵工場ハ一九三五年起工、今三七年操業開始ノ豫定テアルカ實際ノ工事ハ著ク遅延シテ居ル模様テ

在ハバロフスク日本總領事館

アル

現在建築労働者ハ千五百名内外、寔成ノ曉ニハ尼港及「ニジネ、タソボフスコエ」附近ノ鐵礦及「ヒンガノ」産原鐵ヲ集メテ作業スル豫定テアルカ能力其他ハ不明テアル

又ニ港ニ於テモ同地産原鐵ニ依ル製鐵工場建設ノ計畫カアリ傳ヘラレル所テハ労働者三千名ト豫定セラレテ居ル

石ノ外沿海州東岸「オリガ」又ハ蘇城附近ニモ製鐵工場建設ノ案カアルラシイカ確實ナルコトハ判ラナイ

有色金屬冶金工業

有色金屬ノ埋藏量ハ相當ニ豊富テアルラシイカ現在迄ニ開發セラレタモノハ僅ニ沿海州「チチユヘ」ヲ中心トスル「シハリ」嶺山ノミテアル

「チチユヘ」ニ在ル工場ハ原鐵タル方鉛礦及閃亜鉛礦ヲ鉛分ト錫分トニ撰別スルモノテ其ノ能力ハ年十五萬屯テアル 鑛鑛撰別セラレタ錫分ハ海路「フンバス」ニ送ツテ精煉スルノテ現地テハ唯、鉛分

在ハバロフスク日本總領事館

タケラ更ニ向地ニアル年産一万四千屯ノ製鋸工場ニ於テ處理スル
ノテアル

在ハバロフスク日本總領事館

第四章

機械製造工業

極東ニ於ケル機械製造工業ハ從來ハ甚タ不振テアツテ一九三一年ノ
製造高ハ 農具約三百萬留 其他ノ諸機械約二百七十萬留 合計五
百七十萬留(以上一九二六、七年ノ價格)ニ過キナカツタ第二次五
箇年計畫ニ入ツテハ軍事關係工業ノ飛躍ト建設事業、農業、鑛業、
運輸等ノ躍進ニ伴ヒ必然的ニ諸機械類ノ急激ナル需要増加ヲ招來シ
爲ニ重工業ニ對スル投資ノ約四分ノ一ハ諸機械製造ニ振向ケラルル
有様テ從テ製造高モ年々増加シ一九三四年ニハ五千三百二十一萬留
三五年ニハ約八千萬留ニ膨脹シテ居ル
自動車、兵器、造船、航空機等ニ關聯スル機械ノ製作ニ就テハ夫々
別章ニ述フルコトトシ茲テハ夫レ以外ノ一般機械類ノ製作ニ就テ觀
察スル

機械類中ノ大部ヲ占メルモノハ農具テアル「トラクター」及「コ
ンバイン」ノ如キ複雑ナルモノハ未タ製造シ得ス牽引用播種機、草
刈機、刈取機カラ脱穀機、除草機等ノ簡易ナ機械ハ哈府「モロトフ

在ハバロフスク日本總領事館

一 名稱造機工場（一般ニ極東農具工場ト稱ス）、浦潮農具工場、ウオロシローフ市農具工場及武市黒龍江金屬工場等テ製作セラレテ居ル但シ其ノ能力ハ何レモ判然シナイ 其他テハ「ウオロシローフ」市及武市ノ職業學校テモ若干ノ製作ヲ行ツテ居ルヤウテアル 鎮山用及土木用機械器具類並簡單ナル工場内ノ工作機械類ハ前記ノ諸工場及浦潮ノ金屬工場等テ製作セラレテ居ル
 以下重要ナル機械製作工場ヲ擧クレハ
 一 浦潮「ウオロシローフ」名稱極東造船工場（別章記述）
 一 浦潮農具工場
 一九三三年操業、油槽、農業機械、土木器具等ヲ製作ス尙ホ兵器ノ製作及修理ヲ行ヒツツアリト傳ヘラレル
 一 浦潮金屬機械工場
 各種鑄造物及鎮山用機械ヲ製作ス
 一 「ウオロシローフ」市農具工場
 一 「シマコフカ」農具工場

在ハバロフスク日本總領事館

一 哈府「モロトフ」名稱極東造船工場（別章記述）
 一 哈府黒龍江船舶修理工場（別章記述）
 一 尼港鐵工所
 帝制時代ヨリアル小規模ノモノテ工場三棟ヨリナリ鑄造物及船舶用部分品等ヲ製造ス
 一 「ビロビツヂヤン」極東修繕工場
 昨三六年起工 目下建設中テアル
 一 武市黒龍江金屬機械工場
 職工數四百六十名 事業ハ農具ノ製造修理 鎮山特ニ採金機械ノ製作等テ一九三〇年度ノ業績ハ銑鐵鑄物一九一屯、銅鑄物二屯 價格ニシテ三十六万留餘テアツタカ 三四年ニハ生産價格五百六十万留ト言ハレテ居ル
 尙ホ以上ノ外目下開發計畫中ノ「ヒンガノ、プレーヤ」鎮業地帯ノ建設計畫中ニハ鎮山、治水用機械カラ鐵管、針金、鋸釘類ノ製造ニ従事スル數箇ノ工場カ包含セラレテ居ルカ之カ實現ハ尙ホ前途遼遠

在ハバロフスク日本總領事館

ト思ハレル

在ハバロフスク日本總領事館

第五章

造船工業

造船工業ハ第二次五箇年計畫以來勃興シタモノテ夫レ以前ニハ航洋
 艦船ノ建造ハ行ハレス專ラ浦潮及武市等ニ於テハ數箇ノ造船所ニ於
 テ艦船ノ修理、漁業用船舶舢舨等ノ建造及黒龍江水系江連用汽船ノ
 組立並「バルヂ」類ノ建造カ行ハレテ居タニ過キナイ

滿洲事變以後太平洋艦隊及黒龍江小艦隊ノ強化並第二次五箇年計畫
 ニ依ル極東兩艦隊ノ擴充、漁業ノ振興、勘察加、「コルイマー」及薩
 哈噠噠諸地方ノ開發、大小航路ノ開拓等幾多新規事業ノ勃興ニ伴ヒ
 必然的ニ造船造艦事業ノ可及的擴張ヲ必要トスルニ至ツタノテ期業
 ハ茲ニ俄ニ活況ヲ呈スルコトナツタ然シナカラ現在ニ於ケル狀
 態ハ尙ホ建設ノ中途テアツテ工場ノ未完成、整備ノ不完全、技術ノ
 不熟等ニ依リ未タ所期ノ作業力ヲ發揮シ得ス先ツ焦眉ノ急務ニ處
 スルノ主眼テ現存機構ノ主力ヲ擧ゲテ海軍艦艇ノ建造ニ邁進シテ居
 ル有様デアル

最近喧傳セラレル極東赤色海軍ノ強格增強就中數十隻ヲ數フル潜水

在ハバロフスク日本總領事館

艦ノ大部ハ實ニ僅々三、四年ノ間ニ極秘裡ニ建造セラレタモノデア
ル
借テ以下期業ノ内容ヲ検討スルコトニスルカ國防工業ノ主要部門ト
シテ至嚴ナル機密ヲ保持シテ居ルノテ作業能力其他必要ナ數字
的統計ハ因ヨリ判然シナイ止ムヲ待ス個々ノ斷片的資料又ハ情報ヲ
輯録スルコトニスル

當地方ニ於ケル重要ナル造船工場ヲ擧クレハ

一 浦潮「ウオロシロフ」名稱極東造船工場

一九三二年操業開始 現在職工約三千五百名

主トシテ潜水艦 驅逐艦ノ建造 艦艇船舶ノ修理ヲ行フ外 火炮

機關銃、小銃、自動車、「トラクター」等ノ修理 船舶用機械

漁業用器具ノ製作修理ヲ行ツテ居ル

ハ 哈府「キーロフ」名稱造船工場

哈府北方約十軒「オンボフスキー」根據地ニアリ 一九三四年操

業開始 現在ハ専ラ潜水艦ノ組立ニ従事シテ居ルモノノ如ク其ノ

在ハバロフスク日本總領事館

能力ハ年二隻内外ト推定サレル 職工労働者ノ數千五百名内外

ハ「コムソモリスク」市黒龍江造船工場

一九三三年起工 三六年竣工ノ豫定テアツタカ遅レテ今尙ホ工畢

續行中デアアル然シ本年未迄ニハ概成スルモノト思ハレル

極東第一ノ造船工場其ノ主体ヲナスモノハ 造船臺三基、船渠

三基テ共ニ三、四千噸級ノ艦船ノ建造修理ヲ爲シ得ルモノト思ハ

レル企業内ニハ「デーゼル」機部、機械修理、機械製作、鍛

工、器具、鑄造、組立、通信器材、木工等二十數箇ノ職場カアリ

又發電所（出力六千「キロワット」）、製材所等カ附屬サレテ居

ル 昨三六年初頭カラ一部ノ作業カ始メラレタガ恐ラク本年夏頃

カラ本格的操業ニ入ルテアラウ

事業ハ艦船、「バルヂー」及油槽船等ノ建造及修理テアルカ昨三六

年度ノ業績ハ潜水艦二隻ノミテアツタ從業員職工労働者ノ數ハ合

計一万人以上ト推定セラレル

ハ 武市「レン、ザトン」造船所

在ハバロフスク日本總領事館

本造船所ハ次ニ述フル武市造船所ト共ニ帝制時代カラ黒龍江用船舶ノ組立及修理ヲ行ツテ居タモノデアルカ近年改装シテ施設ヲ充實シタ

職員職工等計約千五百名、事業ハ江用船舶、「バルヂー」、油槽船等ノ組立建造及修理ヲ三五年度ノ業態ハ汽船「スターリン」號ノ組立ヲ行ヒタル外客船貨物船各二隻ヲ建造シタ

武市造船所

職員職工約千二百名

事業ハ江用艦船、「バルヂー」及油槽船等ノ組立建造及修理デアツテ三五年ノ業績ハ曳船四隻「バルヂー」三隻ノ建造 三六年ハ「バルヂー」四隻ノ建造デアツタ

次ニ以上ノモノニ比シ稍、小規模ナル造船所又ハ修船工場ヲ列記ス

レハ

一 浦潮「グラフ、ルイバ」漁業造船所

主トシテ漁業用船舶ノ建造修理ヲ行フ昨三六年ノ作業計畫ハ川崎

在ハバロフスク日本總領事館

船百八十隻、冷凍船三隻、百噸積貯舟五隻及七十五馬力「デーゼル」船二隻ノ建造デアツタ

二 浦潮南部沿海洲漁業「トラスト」造船所

三 蟹漁業「トラスト」船舶組立修理所

四 浦潮潜水作業隊

船艦ノ吃水ノ修理、遭難救助、沈没艦船ノ引揚等ヲ行フモノテ潜水夫ノ數ハ二十名餘デアル

五 哈府黒龍江船舶修理工場（「アルトザトン」修船所）

從業員職工等計約六百名、江用船舶及「バルヂー」ノ修理及浚深機ノ製作等ヲ行フ

六 「スラゼフカ」造船所

帝制時代カラアツタ造船所ヲ目下改装中デアル黒龍江鐵道本線上ニ位シ交通上惠マレテ居リ其ノ事業ハ江用船舶及「バルヂー」ノ建造修理テ規模ハ相當ニ大デアルト稱セララルカ詳細ハ不明デアル

七 尼港造船所

在ハバロフスク日本總領事館

船舶ノ修理及漁業用小船艇ノ建造ヲ行フ 小規模ノ造船臺六基ヲ有シ年木造船船約二百五十隻ヲ建造シ待ル

ハ「ソフガワニ」造船所

昨三六年建設開始、建設費七千万留、内容ハ不明テアルカ職員職工ノ數ハ六七百名ト推定セラレル

九「ナガエゾ」船舶修理所

一〇「マダガン」船舶修理所

以上ノ外漁業用小船艇、汽艇等ノ建造修理ヲ行フ小規模ノモノハ尙若干存在スル武市及尼港ノ職業學校テモ實習用トシテ汽艇等ヲ建造シテ居ル又且目下烏蘇里河沿岸ニモ江用造船所ノ建設カ計畫セラレテ居ルト報セラレテ居ル

在ハバロフスク日本總領事館

第六章 自動車工業

シ在極東ニ於ケル各種自動車「トラクター」類ノ現在數ハ統計資料ノ缺如ニヨリ不明テアルカ若干ノ斷片的資料等カラ判斷スレハ概畧乗用車二、六〇〇 「トラック」一五、三〇〇 乗合自動車五〇〇 「トラクター」九、四〇〇 「コンバイン」四、八〇〇 戦車一、〇〇〇 臺内外ノ多數ニ上ル模様テアル從テ自動車工業ハ本地方工業中極メテ重要ナル部門ヲ占メル

然シナカラ在極東ニハ自動車ノ製造工場ハ存在セス又其ノ建設ノ計畫モ無イ 新品ノ自動車及「トラクター」類ハ悉ク西方カラ移送セラルルノテアル

修理工場ハ哈府ニ大規模ノ專門工場カ一箇アリ 次等程度ノ修理工場ハ若干ノ地方中心城市ニ分散シ又浦潮、哈府其他ノ主要都市ニ在ル造船等ノ工場テハ事業ノ一部門トシテ修理ヲ行ツテ居ル又大各都市ニハ到ル所修理所（マステルスカヤ）カアリ自動車根柢地、自動車庫^{クラシ}及器具供用所（エム、テー、エス）ニハ夫々附屬ノ修

在ハバロフスク日本總領事館

理班カアリ又及國營及集團農場、大工場、林業「トレスト」其他多數
 ノ自動車又ハ「トラクター」等ヲ有スル企業ハ各々修理班ヲ拵ツテ
 居ル 要スルニ目車、「トラクター」等ノ修理機關ハ小規模ノモ
 ノヲ分散式ニ配置シ努メテ現地修理ニ依ル方式ヲ用ヒテ居ルノテア
 ル以下主要ナル自動車修理工場ヲ擧クレハ
 一 哈府「カガノウイツチ」名稱第百五自動車修理工場
 一九三一年起工 三五年夏概成操業ヲ開始シタモノヲ建設費ハ四
 千七百万留テアル 職員職工ノ數ハ二千名内外ト思ハレル各種自
 動車「トラクター」、戦車等ノ機關ノ修理 車体及部品ノ製作
 ヲ行ヒ其ノ作業力ハ自動車ノ大修理一日十臺年約三千臺餘テアル
 工場内ニハ機關、木工、器具、鍛造、車体組立、機關修理、鑄造
 等ノ工場カアル
 二 浦潮「ウオロシロフ」名稱造船工場（別章記述）
 三 「ウオロシロフ」市自動車修理工場
 四 哈府「モロトフ」名稱造船工場（別章記述）

在ハバロフスク日本總領事館

五 「コムソモリスク」自動車修理工場
 六 「ナガエツオ」自動車修理工場
 七 「マヌダガン」自動車修理工場
 八 「アトカ」自動車修理工場
 九 亞港自動車修理工場
 一〇 「ブリユツヘロウオ」自動車修理工場
 一一 「ピロビツチャン」自動車修理工場

在ハバロフスク日本總領事館

第七章 航空器材工業

現在極東ニ在ル飛行機ハ軍用機約千五百 非軍用機百餘 合計千六百乃至千七百機ノ多數ニ上ル從テ航空器材工業ノ成果ハ當地方ニ取リテ重大ナル問題テアル

從來當地方ニハ航空器材工場ハ飛行隊駐屯地及主要ナル非軍用航空港ニ於ケル小規模ナル修理工場數箇ヲ算フルノミテアツタカ最近極東情勢ノ緊張ニ伴ヒ航空器材工業ノ獨立ヲ目指シテ大規模ナル工場數箇ノ建設カ開始セラレ此等ハ大体昨一九三六年度カラ前後シテ本格的操業ヲ開始スルニ至ツタ之カ爲カ最近テハ遙々歐亞カラ鐵道ニ依ツテ輸送セラルル航空器材ノ數量モ著ク減少シタルヤニ感セラ
ルルノテアル

現在スル飛行機製作工場ハ三箇テアツテ其ノ内容ハ因ヨリ極秘物テアルカ諸情報ヲ綜合スルニ大要次ノ如クテアル

一 浦潮第百四十五號飛行機工場
飛行機々体及部分品ノ製作並飛行機ノ修理ヲ行フ 從業員職工合

在ハバロフスク日本總領事館

計約七千名、製作能力 重爆機 偵察機 驅逐機等合計年約百二十乃至百五十機

一 哈府「ゴリキ」名稱第八十三號飛行機工場
作業ハ浦潮第百四十五號工場ニ向シ 從業員職工合計約六千名、能力 重爆機 驅逐機其他合計年約百機内外

一 「コムソモリス」第百二十六號飛行機工場
極東第一ノ飛行機工場テ飛行機々体、發動機及飛行機部分品ノ製作並此等ノ修理ヲ行フ 能力ハ飛行機々体年約百二十機内外テアル 發動機工場ハ目下建設中テ其ノ能力ハ不明テアル 從業員職工ハ合計九千名内外テアル

本工場ハ「コ」市ヨリ約六軒ヲ隔テ「ゼヨムギ」村ニ在リ工場ノ規模ハ頗ル大テ企業内ニハ機体、發動機、製材、木工、煉瓦、「セメント」、機械器具、鑄物、自動車等ノ各職場ヲ包客シテ居ル以上ノ三工場ノ外ニハ飛行機製作工場ハ無ク專ラ修理工場テアル 即ち軍用及非軍用飛行隊ノ所在地ニハ夫々其ノ所在機數ノ大小ニ應

在ハバロフスク日本總領事館

シテ發動機及機体ノ修理工場（マスタースカヤ）カ設置セラレテ居
 ル以下其ノ主ナルモノヲ擧クレハ
 一 浦潮二番河飛行機修理工場
 二 「ウオロシーロフ」飛行機修理工場
 三 同市南郷郊ニアリ職工數約四百名
 四 「スバスク」軍用機修理工場
 五 「ソフイスコエ」軍用機修理工場
 六 哈府非軍用機修理工場
 七 「ソフイスコエ」軍用機修理工場
 八 尼港飛行機修理工場
 九 「ベトロバフロフスク」飛行機修理工場
 十 「ルフロオ」飛行機修理工場
 以上既述ノ件ヲ要約スレハ飛行機々体ノ製作工場ハ浦潮、哈府及「
 コムソモリスク」ノ三工場テ其ノ製造能力ハ各種型式合計年三百四
 十乃至四百機テアル 發動機ノ製造ハ目下ハ「コムソモリスク」第

在ハバロフスク日本總領事館

百二十六號企業内ニ發動機工場ヲ建設中テ本年中ニハ最初ノ製品ノ
 出現カ豫想サレテ居ルノテアル

在ハバロフスク日本總領事館

第八章

兵器製造工業

兵器製造工業ハ秘秘中ノ秘秘テアツテ其内容ハ殆ト判明シナイカ諸般ノ情勢カラ考ヘテ烏蘇里及沿海地方 哈府及「コムソモリスク」地方黒龍江地方ニ夫々大規模ナ兵器工廠ノ存在ハ想像シ得ラルル所デアル

以下諜知シ得タルモノヲ基礎トシ之ニ若干ノ判断檢討ヲ加ヘ見ヤウ

浦潮兵器工廠

浦潮郊外ニ在リ職員職工等約一万人 重輕機關銃、小銃及彈藥類ノ製作ヲナス

浦潮極東造船工場（別章記述）

浦潮極東兵器工場

「オケアンスカヤ」驛附近ニアリトイフモ内容不明ナリ

「ウオロシロフ」市造船工場

自動車、「トラツク」、戦車等ノ修理及以上ノ部分品ノ製作ヲナ

在ハバロフスク日本總領事館

ス尙ホ石ノ外火兵ノ製造修理及彈藥ノ製造ヲ行ヒアルヤノ疑アリ
ハ哈府「モロトフ」名稱極東造船工場

本工場ハ一般ニ極東農具工場（ダリ セリ マシン）ト稱スルモノデアルカ其ノ前身ハ帝制時代ニ於ケル砲兵工廠デアル一九三三年擴張工事ニ着手シ三五年未カラ操業ニ入り三六年未完成シタ工場ノ敷地ハ狹テ左程大規模トモ思ハレナイカ煉瓦工場十棟

職場數二十餘ヲ稱シ職員職工ノ數ハ約七千名デアル 作業カ現在テハ農具ト稱スルモノハ「トラクター」類ノ修理及 易ナ農具試驗機械ノ製作ニ止マリ寧口橋梁材料、野戰車輛、「タチヤンカ」等ノ製作 火兵、戦車類ノ修理ヲ主トシテ居ルモノノ如クデアル又一説ニハ重輕機關銃 拳銃 迫撃砲等ノ製作修理ヲナシツツアリトモ傳ヘラレテ居ル

ハ哈府兵器工場廠

實在ハ明確ナラサルモ哈府郊外ノ衛戍地「クラスナヤ、レチカ」或ハ「セレガロフカ」村附近ニ存在ヲ想像セラレル

在ハバロフスク日本總領事館

セ「コムソモリスク」兵器工廠
 是モ亦實在ハ明確テハナイカ屢、其ノ建設計畫ノ存在ヲ耳ニスル
 建設（ストロイカ）第百二十五號ト稱スルモノニ非スヤト思ハル
 ハ「ビロビツチャン」車輛工場（アボーズ ザウオード）
 一九三五年ヨリ建設ニ着手シ本年中ニ竣工ヲ豫定セラレ完成後ハ
 當然野戦車輛、「タチャンカ」、輜重車輛等ノ製造ヲモ行フコト
 ト思ハレル 所屬發電所ノ出力百九十二「キロワット」、作業動
 力「エス、カー」四型蒸汽機關三百五十馬力テ職場數ハ十三テア
 ル
 右ニ列擧シタルモノノ外沿海州「オリガ」附近ニ大規模ナル造機工
 場カ有ツテ兵器ノ製作ニ從事シテ居ル由テアルカ内容ハ全ク不明テ
 アル

在ハバロフスク日本總領事館

第九章 車輛製造工業

本章テハ鐵道車輛及荷車等ノ製造並修理ニ就テ述ヘル
 一 鐵道車輛

- 鐵道車輛ノ新造ハ極東テハ行ハレス專ラ修繕作業ノミテアル
 機關車及客貨車ノ小修繕ハ所在ノ機關車又ハ客貨車修繕工場ヲ實
 施セラハルカ大中程度ノ修繕ハ次ノ諸工場ニ依テ行ハレテ居ル
- (一) 浦潮客貨車修繕工場
 - (二) 「ウオロシーロフ」驛機關車修理工場
 機關車ノ大中修理 月八輛ヲ標準トスル
 - (三) 「ウオロシーロフ」驛客貨車修繕工場
 - (四) 第二哈府驛客貨車修繕工場
 - (五) 「ウオロチャエフカ」驛客貨車修繕工場
 「コムソモリスク」支線ノ分岐點トシテ目下工場建設中テアル
 - (六) 「ミハイロ、チエスノコフスク」客貨車修繕工場
 黑龍及極東兩鐵道局管内最大ノ工場テアル、月標準修理能力ハ

在ハバロフスク日本總領事館

大中故障車各六十輛計百二十輛テアルカ昨三六年ノ成績ハ良好
 テ課題大中故障千六百輛ニ對シ貨車千六百二十六輛ノ修理ヲ遂
 行シタ
 尙ホ車輛ノ修理施設ハ現在尙ホ不足シテ居ルノテ建設ノ豫定カア
 ルラシク最近「ビギン」驛ノ擴張工事開始等カラ判斷シテ同驛附
 近ニモ新設ヲ豫想セラレル
 荷車製造
 現在操業シテ居ル稍大ナルモノハ「ウオロシーロフ」荷車工場
 及武市荷車工場ノ二テアル 前者ノ能力ハ不明テアルカ 後者ハ
 職工三十六名 年製造高約千四百臺テアル
 尙ホ目下建設進行中ノ「ビロビツヂヤン」市車輛（アボーズ）工
 場ハ石二者ニ比シヨリ大規模ナルモノテアルカ之ニ關シテハ既ニ
 第八章ニ記述シタ通りテアル

在ハバロフスク日本總領事館

第十章

化學工業

當地方ノ化學工業ハ極メラ幼稚ニテアツテ其ノ施設並生産ハ一
 言ニシテ表ハセハ零テアルトモ評シ待ル 以下簡單ニ若干ノ施設ヲ
 列舉スルカ脂油、酒精油、鹽、沃土等ニ關シテハ既ニ調書「極東蘇
 領ニ於ケル食料品工業ノ現状」中ニ記述済テアルカラ茲テハ之ヲ省
 略スル

- ハ浦潮化學研究所
- ハ「ウラジミール」化學工業工場
- ハ哈府防毒研究所
- ハ哈府化學製藥工場
 - 目下建設中、建設労働者約二百五十名
- ハ哈府塗料工場
 - 目下建設中、精油作業副産物トシテ各種染料及印刷用染料ヲ製造
 スル豫定
- ハ哈府化學研究所

在ハバロフスク日本總領事館

大体以上ノ如キ貧弱ニ極マシテ施設テアツテ地方所在ノ原料並
 化學製品需要ノ緊切等カラ考ヘテ當然化學肥料、染料、藥劑、火藥
 等ノ製造工業カ發達シテ居ラネハナラヌ管テアルノニ此ノ如キ不
 ノ現況ハ理解ニ苦シム所テアル唯、茲ニ注目ヲ要スルノハ最近國防
 ノ強化ニ伴フ軍民ノ防禦空防毒意職ノ異常ナ昂揚ナリテ昨年來都鄙
 到ル所ニ小規模ナカラ化學研究施設カ設置セラレツツアルコトテ
 ル

在ハバロフスク日本總領事館

第十一章 結言

近年ニ於ケル極東地方ノ重工業ノ實績、續就中其ノ生産高ハ具體的資
 料ノ缺如ニヨリ之ヲ明ニシ得、イ、然シナカラ一九三五年初頭地方
 執行委員會議長「クルトフ」ノ行ツタ報告ヲ引用スレハ一九三〇
 年カラ三四年ニ亘ル各年ノ生産額ハ次ノ如キ躍進振ヲ示シテ居ル
 (一九二六、七年ノ價格)

年 度	生産額 (留)
一九三〇年	二〇、九三三、一〇〇
一九三一年	三〇、八四六、九〇〇
一九三二年	四九、二二九、五〇〇
一九三三年	六三、二八四、〇〇〇
一九三四年	八七、八五七、三〇〇

又昨年春ノ極東地方執行委員會議ニ於ケル重工業人民委員部極東
 全權代理「イワノフ」ノ報告演説ニ依レハ「一九三〇年ヨリ三五年
 ニ至ル間ニ於テ重工業ノ製品産額ハ二六、二七年ノ價格ニテ四、八

在ハバロフスク日本總領事館

倍ニ増加シ又地方産物總生産ニ對スル重工業生産ノ比率ハ三〇年ノ
 一五、五%ヨリ三五年ノ四二、五%ニ飛躍シタトアリ更ニ本年
 三月ノ同様ナ會合ニ於ケル地方計畫委員會議長「パトリキエフ」
 ノ報告演説ニ依レハ「一九三六年度ノ統計的査定工業ノ生産額ハ前
 年ノ三八五百万留カラ五四〇百万留ニ躍進シ重工業生産額ハ同シク
 五三%ヲ増加シタトアル
 何レニシテモ最近重工業ノ飛躍的發達振ハ注目ヲ要スル所テアル而
 シテ第二次五箇年計畫ニ依ル尨大ナ重工業諸建設ノ大部分ハ前半期
 即チ一九三三、三四、三五年度ニ於テ起工セラレ其ノ完成期ハ大体
 昨年乃至本年トナツテ居ルモノカ多イカラ本年ハ宛モ五箇年計畫ノ
 最終年トシテ諸多ノ生産企業カ相續イテ絢爛ト開花スル時ニ當ルノ
 テアル 從テ本年度並其ノ後ニ於ケル重工業部門ノ諸事業ハ既往ノ
 成果ニ比シ更ニ更ニ一段ト目醉シイ飛躍ヲ遂ケルモノト想セラレ
 ルノテアル
 以上各章ニ亘リ事業別ニ記述シタ所ヲ通觀スルニ重工業トハ言ヒナ

在ハバロフスク日本總領事館

カラ其ノ眞体ハ畢竟國防工業ニ外ナラナイ極東ノ風雲轉々暗儚タル
 モノアル今日極東重工業ノ推移ハ吾人ノ最大關心事トシテ常時嚴重
 ナル監視ヲ續ケネハナラヌ重大問題テアル

在ハバロフスク日本總領事館

主信	6	2	6
附甲	6	2	6
附乙			
附丙			
附丁			
備考	E4.1.0.3		

要寫二部
懸案

後
三
三
三

文書課 昭和十二年六月廿二日發送済		主 任 第一課長	正校(原稿) 谷口 (淨世)
符 歐亞局長		主 任 第一課長	昭和十二年六月八日起草
歐一機密令第二七五六號 龍瀬拾貳年六月押九日 日附 附屬		受 陸軍省後室 軍務局長	
		信 參謀本部 渡 第二部長	
		人 海軍省 豊田 軍務局長	
		名 軍令部 野村 第三部長	
件 名 訓書 極東蘇領ニ於ケル重工業ノ現狀ニ付ノ件		名 件 録 記 多 子 工 号 札 仁	
本件ニ關シ今般在ハバロフスク島田總領事ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ			
付御參考ノ爲右茲ニ送付ス			
本信送付先 陸海軍省 參謀本部 軍令部			
(昭和十二年四月十一日附在總領事館來信機第 四六 號寫附屬書寫)			
公 信 案			
外 務 省			

19 61

歐亞局

件名

第一課

昭和三年八月拾六日接受

(赤枠紙)

公普通第二一號

昭和十二年七月十六日

在「ソウヰエト」聯邦

特命全權大使 重光

外務大臣 廣田 弘毅 殿



調査 12.9.1 課三

分類 E.Y.S.O.31

「ソ」聯邦ニ於ケル輕工業品ノ値下ニ關スル件
今般四月二十八日附「ソ」聯邦人民委員會議決定ニ基キ全國的ニ六月一日及七月一日ヨリ廣範圍ニ亘リ主要輕工業品ノ値下ヲ實行スルコトトナレリ「ソ」當局ノ説明ニ依レハ右ハ製造工業ノ成功第二次五ヶ年計畫ノ期限前遂行ノ結果國家ノ手ニ新ニ物資ヲ集蓄シ一層日

用工業品ノ値下ヲ實行シ得ル状態トナリタルニ依ル趣ニシテ他方資本主義國特ニ日獨ニ於テハ益々物價騰貴ニ苦シミ居ルニ鑑ミ「ソ」聯邦ノ斯ル物價低落ハ社會主義建設成功ノ然ラシムル所ナリト自讃シ居レリ

六月一日ヨリ値下セラレタルモノ及其ノ率左ノ如シ

綿織物	一〇乃至一六%
毛織物	八一 一一%
麻織物	五一 一五%
靴	五一 一五%
毛皮	五%
「ミシン」機械	一〇%
著音機	一五%
運動具	一二%
電球	八%

(赤枠紙)

煙草	一〇%
窓ガラス	一五%
燐寸一箱	三哥ヨリ二哥ニ値下
化粧石鹼	一五% (追加決定)
又七月一日ヨリ値下セララルモノ左ノ如シ	
莫大小類	五一一二%
洋服帽子類	五一一〇%
小間物類	一〇%
家具	五一一〇%
樂器	一〇一一五%
學用品	五%
玩具	一五%
左ニ最近ノ當地ニ於テ普遍的商品ノ値段ヲ例示セハ左ノ通りナルカ各工業品ハ何レモ未タ惡質ノモノ多シ	

(赤印紙)

男出來合洋服三揃	八六〇留	値下前	二八六	値下後
出來合オーパー男物	三八〇			
同 女物	一九二		一七八、五〇	
婦人職 人絹	四五〇			
同 木綿	一〇三、五〇		九八三〇	
人絹女「セーター」	四〇、四〇		三八、四〇	
靴下男用	九、三四			
同女用	六、六五			
ネクタイ	四、九〇		四、六〇	
人絹ブラウス	五七、八〇		三九、一〇	
トランク	二五九		二四四	
男短靴	二四五		二二〇、五〇	
女靴	二九〇		二六一	

(赤印紙)

食器棚	五四五	五〇四
ソーフア	三五〇	三二四
事務机	三一三	二九〇
蓄音器	三八三	三二五
自轉車	一九二	一六三、二五
香水	四〇	三〇
オデコロン	一三	一二
ハミガキ、チューブ入	三	二、五〇
手風	三二五	二九二、五〇
マンドリン	四五	三八、二五

(赤枠紙)

E-2041

О снижении розничных цен на промышленные товары широкого потребления

Постановление Совета Народных Комиссаров Союза ССР

Успехи в области промышленного производства и досрочное выполнение второй пятилетки обеспечивают накопление новых материальных ресурсов в руках государства и создают возможность дальнейшего снижения цен на промышленные товары широкого потребления.

В соответствии с этим Совет Народных Комиссаров Союза ССР постановляет:

1. Снизить с 1 июля 1937 года розничные цены на промышленные товары широкого потребления в государственной и кооперативной торговле в следующих размерах:

Товары	В универ-магах с торговой сетью на территории на		В универ-магах с торговой сетью на территории на	
	В общей торговле	повышенными ценами	В общей торговле	повышенными ценами
Хлопчатобумажные ткани				
Ситец	10%	16%		
Бязь белая	5%	10%		
Маденалам и муслин	8%	12%		
Сатиш	7%	10%		
Шерстяные ткани				
Грубшерстные сукна, шеврот и другие в среднем	10%	10%		
Грубшерстные одесла	11%	11%		
Платки шерстяные	8%	8%		
Льняные ткани				
Льняной холст и полотенец	10%	15%		
Льняное полотно (узкое белое)	10%	15%		
Льняные полотняные простыни	9%	13%		
Льняное полотно полубелое	5%	7%		
Костюмные (шестротканые) льняные ткани	6%	8%		
Обувь				
Модельная обувь	10%	10%		
Обувь повышенного качества	8%	12%		
Обувь стандартная на резиновой подошве	8%	12%		
Обувь стандартная на кожаной подошве	5%	10%		
Обувь малочерная и детская	8%	12%		
Обувь мужские	8%	12%		
Обувь женские	10%	15%		
Галоши детские	10%	15%		
Тапочки резиновые	5%	10%		
Парфюмерные товары (одеколон, зубной порошок, духи, вазелин и пр.) в среднем	15%	15%		
Межа	5%	5%		
Швейные машины	10%	10%		
Патефоны	15%	15%		
Спортивные товары (рыболовные и охотничьи принадлежности, мячи, шахматы, шапки и др.)	12%	12%		
Электrolампы	8%	8%		
Стенло оконное	15%	15%		
Папиросы емских сортов в среднем	10%	10%		
Спички (стандартные) с 3-х до 2-х копеек				
2. Снизить с 1 июля 1937 года цены на промышленные товары широкого потребления в государственной и кооперативной торговле в следующих размерах:				
Трикотаж				
Трикотажное белье	5%	10%		
Верхний трикотаж вискозный	5%	10%		
Поски мужские	8%	12%		
Чулки женские вискозные	5%	10%		
Чулки и носки детские	5%	10%		
Швейные изделия промышленного качества				
Готовое платье мужское и женское	7%	10%		
Белье мужское и женское	5%	8%		
Детское готовое платье и белье				
Детские головные уборы	7%	10%		
Проме того, снизить цены по швейным изделиям массового пошива, изготовляемым из тканей, по которым снижены цены настоящим постановлением, в среднем от 4% до 6%.				
Галантерейные товары в среднем	10%	10%		
Мебель в среднем	5—10%	5—10%		
Музыкальные инструменты (балайки, гармонь, гитары, мандолины, баяны) в среднем	10—15%	10—15%		
Школьные принадлежности (рапицы, пеналы, ручки, перья и т. д.)	5%	5%		
Игрушки	15%	15%		
3. Поручить Наркомноторгу СССР, Наркомлегпрому СССР, Наркомпищепрому СССР, Наркомлесу СССР, Наркомтяжпрому и Всекопромсовету, по согласованию с Наркомфином СССР, а также Совнаркомом союзных республик утвердить в установленном порядке новые прейскуранты со сниженными ценами на указанные в настоящем постановлении товары и ввести их в действие в сроки, установленные статьями 1 и 2.				

Председатель Совета Народных Комиссаров Союза ССР В. МОЛОТОВ.
Управляющий Делами Совета Народных Комиссаров Союза ССР М. АРБУЗОВ.
Москва, Кремль, 28 апреля 1937 г.